

令和7(2025)年度 東筑紫短期大学 教員情報

【食物栄養学科】

ナカオカ ヒロシ
中岡 寛 NAKAOKA Hiroshi 学長補佐 (教学担当)・教授

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	【食物栄養学科】 ・栄養学総論 ・栄養学各論 ・解剖生理学実験 ・生化学実験
専門分野	■ 栄養学
最終学歴	長崎大学大学院 海洋生産科学研究科 修士課程
学位	修士 (水産学)
職歴	東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (昭和 61(1986)年 4 月～平成 6(1994)年 3 月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 助教授 (平成 6(1994)年 4 月～平成 17(2005)年 3 月) 東筑紫短期大学 教務部 企画広報課長 (平成 10(1998)年 4 月～平成 31(2019)年 3 月) 九州栄養福祉大学 教務部 企画広報課長 (平成 13(2001)年 4 月～平成 31(2019)年 3 月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (平成 17(2005)年 4 月～現在に至る) 学校法人東筑紫学園 評議員 (平成 20(2008)年 6 月～現在に至る) 東筑紫短期大学 教務部長 (平成 23(2011)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月) 九州栄養福祉大学 教務部長 (平成 26(2014)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月) 九州栄養福祉大学 学長補佐 (教学担当) (平成 29(2017)年 4 月～現在に至る) 東筑紫短期大学 学長補佐 (教学担当) (平成 29(2017)年 4 月～現在に至る) 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 IR 推進本部長 (令和 4(2022)年 4 月～現在に至る) 学校法人東筑紫学園 理事 (令和 4(2022)年 5 月～現在に至る)
主な研究活動	【論文】 1. “Effect of Polysaccharide from a Yeast - Like Fungus on Lactic Acid Fermentation” (英文) 「乳酸発酵に及ぼす酵母様かび産生多糖の影響」 (東筑紫短期大学研究紀要 第33号 平成14(2002)年12月) (概要) The effect of β -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced by the yeast-like fungus Aureobacidium pullulans ATCC 20524, on the growth of Lactococcus lactis subsp. Lactis 527 and the lactic acid fermentation in skim milk culture media was examined. It was found that β -glucan promoted the lactic acid fermentation during logarithmic growth phase period in the skim milk culture media at 30°C. Above effect had positive relationship with increase in the amount of added β -glucan in skim milk culture media, and this effect got more striking in the presence of high amount of β -glucan. 2. “Effect of Polysaccharide from a Yeast - Like Fungus on Physical Properties of Acid Milk Curd” (英文) 「ミルク酸カードの物性に及ぼす酵母様かび産生多糖の影響」 (東筑紫短期大学研究紀要 第34号 平成15(2003)年12月) (総説) The effect of β -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced by the yeast-like fungus Aureobacidium pullulans ATCC 20524, on the physical properties of acid milk curd was examined. The curd was formed by the growth of Lactococcus lactis 527. It was found from the results obtained that β -glucan decreased the clotting time of milk curd



formation. But, the effect of β -glucan on the physical properties, namely, hardness, breaking energy, and elastic modulus, respectively, of acid milk curd was undesirable on account of the formation of soft curd.

3. “Characteristics of Vienna Sausage Manufactured by Adding Polysaccharide from the Yeast - Like Fungus” (英文)

「酵母様カビ産生多糖を添加したウィナーソーセージの性状」

(東筑紫短期大学研究紀要 第35号 平成16(2004)年12月)

(総説)

The effect of β -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced from the yeast-like fungus *Aureobacidium pullulans* ATCC 20524, on the characteristics of Vienna sausage was examined. It was found from results obtained that polysaccharide from the yeast-like fungus had no influence on the bacterial growth, VBN, TBA of Vienna sausage during cold storage, whereas the desirable values were earned by the estimation of physical properties and the organoleptic test.

受賞歴

全国栄養士養成施設協会会長表彰

(平成22(2010)年11月)

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目	〔食物栄養学科〕 ・児童・生徒の栄養指導 ・給食管理 ・給食管理実習Ⅱ ・栄養指導実習Ⅱ ・教職実践演習（栄養教諭） ・栄養教育実習事前・事後指導 ・栄養教育実習
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 栄養教諭養成に関する指導 ■ 食育・食に関する指導 ■ 児童生徒の食生活 ■ 集団給食における給食管理・衛生管理
最 終 学 歴	熊本女子大学（現：熊本県立大学） 文・家政学部 食物学科
学 位	学士（家政学）
職 歴	<p>中津・宇佐市立小・中学校 学校栄養職員（昭和51(1976)年4月～平成7(1995)年3月）</p> <p>豊後高田市立小・中学校 主任学校栄養職員（平成7(1995)年4月～平成17(2005)年3月）</p> <p>大分県教育庁体育保健課 指導主事（平成17(2005)年4月～平成20(2008)年3月）</p> <p>豊後高田市立真玉中学校 栄養教諭（平成20(2008)年4月～平成26(2014)年3月）</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授（平成26(2014)年4月～平成30(2018)年3月）</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 学科長・准教授（平成30(2018)年4月～平成31(2019)年3月）</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 学科長・教授（平成31(2019)年4月～現在に至る）</p>
教育上の業績	<p>1. 研究分野等の教育内容の充実に向けた取組</p> <p>（概要）</p> <p>○食生活等実態調査を大分県教育委員会として実施し、集計結果及びその分析をとりまとめた「児童・生徒の食生活等実態調査報告書」を作成する。また、この調査をもとに、食育推進の意識の醸成を図るとともに、食育の推進に努める。（平成17(2005)年～平成20(2008)年）</p> <p>○食育基本法及び中央教育審議会答申の趣旨に基づき、食に関する指導の必要性や進め方、栄養教諭の関わりを示し、大分県における食に関する指導の指針となる「食に関する指導の手引」を作成するとともに、全国学校給食研究協議大会などの各種研究会において助言を行う。（平成20(2008)年～平成23(2011)年）</p> <p>○食育基本法及び中央教育審議会答申の趣旨に基づき、食に関する指導の必要性や進め方、栄養教諭の関わりを示し、大分県における食に関する指導の指針となる「食に関する指導の手引」を作成するとともに、全国学校給食研究協議大会などの各種研究会において助言を行う。（平成20(2008)年～平成23(2011)年）</p> <p>○大分県教育委員会において学校における食育の推進及び食に関する指導の充実にための「生きる力を育む食育推進事業」を企画・立案し、研究の方向性や内容、実施方法等について。指定地域・学校の指導に当たる。（平成17(2005)年～平成20(2008)年）</p> <p>○文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実にに関する調査研究」マニュアル作成ワーキング委員を5年にわたり務め、全国の学校給食に携わる関係者にとって、学校給食衛生管理の指針となるマニュアル作成を行う。（平成20(2008)年～平成24(2012)年）</p> <p>○栄養教諭に関する指導書（教科書）の作成 大学において栄養教諭を目指す学生や義務教育諸学校に勤務する栄養教諭のための指導書（教科書）「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」、「学校給食調理従事者研修マニュアル」、「よくわかる栄養教諭―食育の基礎知識 第二版―」を作成し、各研修会における講話や学生に対する講義において実践的な指導に努めている。（平成26(2014)年～平成29(2017)年）</p> <p>2. 作成した教科書・教材</p> <p>・「調理場における洗浄・消毒マニュアル part I」（共著）（文部科学省）（再掲）（平成21(2009)年） 食中毒防止の観点から、調理場における機器や器具の洗浄・消毒について、そのポイントを押さえて記述された教科書である。</p>



	<ul style="list-style-type: none">・「調理場における洗浄・消毒マニュアル part II」(共著)(文部科学省)(再掲)(平成 22(2010)年) 食中毒防止の観点から、調理場における施設設備の洗浄・消毒について、そのポイントを押さえて記述された教科書である。
	<ul style="list-style-type: none">・「調理技術&衛生管理マニュアル」(共著)(文部科学省)(学建書院)(再掲)(平成 23(2011)年) 食中毒防止の観点及び調理技術の向上の観点から調理工程ごとに記述された教科書である。
	<ul style="list-style-type: none">・「学校給食調理従事者研修マニュアル」(共著)(文部科学省)(学建書院)(再掲)(平成 24(2012)年) 「学校給食調理員の標準的研修プログラム」に準拠し、研修を担当する指導者のための教科書である。
	<ul style="list-style-type: none">・「学校給食施設設備の改善事例集」(共著)(文部科学省)(再掲)(平成 25(2013)年) 衛生管理の改善の方法や改善事例を示した教科書である。
	<ul style="list-style-type: none">・「よくわかる栄養教諭一食育の基礎知識 第二版」(共著)(同文書院)(再掲)(平成 28(2016)年) 栄養教諭、食育を学ぶ上で押さえておきたい重要ポイントについて記述された教科書である。
	<ul style="list-style-type: none">・「栄養教諭のための教育実践演習・栄養教育実習ノート」(共著)(学建書院)(再掲)(令和 3(2021)年) 教職課程の「栄養教育実習事前・事後指導」及び「教職実践演習」の授業において、栄養教諭に求められる資質・能力を身に付ける上での基礎・基本を学ぶ教科書として活用できる書である。
	3. 学会等における発表
	<ul style="list-style-type: none">・研究主題「食に関心をもち、自ら考え、健康を追求していく児童生徒の育成」 (第 63 回全国学校給食研究協議大会)(平成 24(2012)年)・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証 ー各種マニュアルの活用を中心にー」 守田真里子 安倍ちか 太田裕美子 高田尚美 土谷政代 田中延子 (第 15 回日本給食経営管理学会学術総会)(令和元(2019)年 11 月)・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証(2) ー各種マニュアル活用の検討ー」 高田尚美 安倍ちか 太田裕美子 土谷政代 田中延子 守田真里子 (第 15 回日本給食経営管理学会学術総会)(令和元(2019)年 11 月)・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証 ～調理場運営(形態)方式等の相違から～」 太田裕美子 安倍ちか 高田尚美 土谷政代 守田真里子 田中延子 (第 67 回日本栄養改善学会学術総会)(令和 2(2020)年 9 月)・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証 ～職種による比較検討を通して～」 安倍ちか 太田裕美子 高田尚美 土谷政代 守田真里子 田中延子 (第 67 回日本栄養改善学会学術総会)(令和 2(2020)年 9 月)・「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示された前後の食物アレルギー対応に関する比較検討 秋葉佳子 岸根美絵 田中広美 竹内佳代子 土谷政代 守田真里子 田中延子 (日本学校保健学会第 68 回学術会議)(令和 4(2022)年 11 月)・「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示された後の食物アレルギー対応の実態 竹内佳代子 秋葉佳子 岸根美絵 田中広美 土谷政代 守田真里子 田中延子 (日本学校保健学会第 68 回学術会議)(令和 4(2022)年 11 月)・「学校給食における食物アレルギー対応指針」に基づいた食物アレルギー対応の現状と課題 岸根美枝、秋葉佳子、竹内佳代子、田中広美、土谷政代 守田真里子 田中延子 (日本学校保健学会第 69 回学術会議)(令和 5(2023)年 11 月)



主な研究活動 (学会発表等)	1. 食生活に関する教育の実践研究 (概要) 児童生徒が「食の重要性」や「食を選択する力」を身につけ、食生活を改善できるよう児童生徒の食生活の実態を把握・分析し、学校・家庭・地域が連携した食に関する指導の研究実践。
	2. 食育の推進に関する実践研究 (概要) 食育の推進充実のための方策として、幼稚園から中学校までの11年間を見通した組織的・計画的な食に関する指導体制の整備や児童生徒の望ましい食習慣の形成に向けた食に関する指導の在り方の研究。
	3. 食物アレルギーをもつ児童生徒への個別指導における研究 (概要) 食物アレルギーをもつ児童生徒への学校給食における食事対応について、文部科学省の「学校のアレルギー疾患に対する取組ガイドライン」に基づき、「食物アレルギー対応マニュアル」を作成する。また、食物アレルギーをもつ児童生徒の個別指導及びその保護者への個別相談活動の取組。
	4. 肥満及び痩身傾向にある児童生徒への個別指導における研究 (概要) 文部科学省の「学校給食摂取基準」に基づき、児童生徒の体格の評価や推定エネルギー必要量を算出し、個別の対応が必要な生徒に対しての個別の指導の在り方における研究実践。
	5. スポーツをする児童生徒のための指導の在り方における研究 (概要) 野球部、柔道部、陸上部を中心に、スポーツ選手としての食事の留意点や試合前の食事、体調管理についての個別指導における研究実践、及びスポーツ栄養に配慮した調理講習会の講師を務める。
	6. 学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究 (概要) 文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者マニュアル作成ワーキンググループ委員」として、学校給食における衛生管理の充実のための研究及びマニュアル作成を行う。
	7. 栄養教諭が行う食に関する指導の在り方 —中央教育審議会答申および学習指導要領を踏まえて— 土谷政代（東筑紫短期大学研究紀要 第47号 平成28(2016)年12月）
	(概要) 「中央教育審議会答申」や現行の「学習指導要領」を踏まえ、学校における食育の推進に向けて、推進・指導体制の望ましい在り方を示すとともに、各教科や領域において、栄養教諭の専門性を活用しながら学校教育活動全体で取り組む「食に関する指導」の在り方を示した。
	8. 「集団給食における衛生管理の考え方 —大量調理の特性および学校給食衛生管理基準の観点から— 土谷政代・光本琴美（東筑紫短期大学研究紀要 第48号 平成29(2017)年12月）
	(概要) 大量調理の特性や「学校給食衛生管理基準」を基に、集団給食における衛生管理の考え方についてハード面、ソフト面の両方から衛生管理のステップを踏まえて記述したもの。
	9. 「新学習指導要領における食に関する指導 —学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて— 土谷政代（東筑紫短期大学研究紀要 第49号 平成30(2018)年12月）
	(概要) 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて、新学習指導要領（平成29年3月告示）における食に関する指導の位置づけや栄養教諭等の専門性の活用の仕方について記述したもの。
	10. 「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証 —各種マニュアルの活用を中心に— 守田真里子 安倍ちか 太田裕美子 高田尚美 土谷政代 田中延子 (第15回日本給食経営管理科学術総会 示説発表) (令和元(2019)年11月)
	(概要) 学校給食における食中毒の件数は、平成9年度から大幅に減少しており、その背景として国が策定した「学校給食衛生管理の基準」や科学的根拠に基づいた各種マニュアル等を作成・配付し、衛生管理の向

	<p>上を図ってきたことが影響していると考えられる。本研究では、学校給食施設の栄養教諭等（12 都道府県 1435 名）にアンケートを実施し、各種マニュアルの活用や指導状況、課題等について調査し、解析・検証を行った。</p>
	<p>11. 「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証（2） —各種マニュアル活用の検討— 高田尚美 安倍ちか 太田裕美子 <u>土谷政代</u> 田中延子 守田真里子 (第 15 回日本給食経営管理学会学術総会 示説発表) (令和元(2019)年 11 月)</p>
	<p>(概要) 本研究では、「10：学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証」について、基準策定のきっかけとなった平成 8 年の腸管出血性大腸菌 O157 による食中毒発生時以前からの勤務者とそれ以降採用の勤務者とで各種マニュアル活用状況や衛生管理に対する意識等に差異がみられるかを検証するため比較検討を行った。</p>
	<p>12. 「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証 ～調理場運営（形態）方式等の相違から～」 太田裕美子 安倍ちか 高田尚美 <u>土谷政代</u> 守田真里子 田中延子 (第 67 回日本栄養改善学会学術総会 誌上发表) (令和 2(2020)年 9 月)</p>
	<p>(概要) 本研究では、学校給食において学校数ベースの調理業務委託率が平成 15 年 15.2%であったものが、平成 30 年 5 月現在 50.6%と増加している（文部科学省 学校給食実施状況等調査）ことから、調理方式（単独調理場・共同調理場）、運営形態（直営・委託）別の各種マニュアルの活用や衛生管理指導状況について検討を行った。</p>
	<p>13 「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示された前後の食物アレルギー対応に関する比較検討 秋葉佳子 岸根美絵 田中広美 竹内佳代子 土谷政代 守田真里子 田中延子 (日本学校保健学会第 68 回学術大会 口頭発表) (令和 4 (2022) 年 11 月)</p>
	<p>(概要) 文部科学省より「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示されたことから、全国の栄養教諭等を対象に Web アンケートを実施し、平成 26 年公益社団法人全国学校栄養士協議会が実施した食物アレルギーに関する調査結果と比較し、学校における体制の整備及び対応内容の差異について解析し検証を行った。</p>
	<p>14 「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示された後の食物アレルギー対応の実態 竹内佳代子 秋葉佳子 岸根美絵 田中広美 土谷政代 守田真里子 田中延子 (日本学校保健学会第 68 回学術大会 口頭発表) (令和 4 (2022) 年 11 月)</p>
	<p>(概要) 全国の栄養教諭等を対象に Web アンケートを実施し、文部科学省から「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示された後の学校給食における食物アレルギー対応の現状や課題を明らかにし、食物アレルギー対応の充実に資することを目的として研究を行った。</p>
	<p>15 「学校給食における食物アレルギー対応指針」に基づいた食物アレルギー対応の現状と課題 岸根美枝、秋葉桂子、竹内佳代子、田中広美、土谷政代 守田真里子 田中延子 (日本学校保健学会第 69 回学術会議) (令和 5(2023)年 11 月)</p>
	<p>(概要) 2015 年に文部科学省から「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示され、医師の診断による学校生活管理指導表の提出を必須とすることが明記された。そこで、対応指針に基づく食物アレルギーを有する児童生徒に対する給食対応についての現状と課題を明らかにし、今後の給食対応の充実に資することを目的として研究を行った。</p>

【著書】	
1. 「調理場における洗浄・消毒マニュアル part 1」(平成 21(2009)年)(文部科学省) 共著者: 文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員 担 当: 第 3 章・2・3 (P20・P44)	
(概要) 食中毒を防止するため、調理場における食品・調理器具等の洗浄・消毒の意義やその重要性及び方法について根拠となるデータをもとに記述。	
2. 「調理場における洗浄・消毒マニュアル part II」(平成 22(2010)年)(文部科学省) 共著者: 文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員 担 当: 第 2 章・3・4・5・6・7・8・9・10 (P13・P24)	
(概要) 調理場の施設や食器等の洗浄・消毒および洗浄・消毒の評価方法についてその重要性及び方法について根拠となるデータをもとに記述したもの。	
3. 「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」(平成 23(2011)年)(文部科学省)(学建書院) 共著者: 文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員 担 当: 第 2 章・1, 第 3 章・1・2, 第 5 章・1・2 (P8・P12) (P15・P27) (P51・P56)	
(概要) 科学的根拠に基づき、検収室・下処理室における洗浄方法や調理室における切裁・調理の作業について衛生管理と調理技術の両方の視点から記述したもの。	
4. 「学校給食調理従事者研修マニュアル」(平成 24(2012)年)(文部科学省)(学建書院) 共著者: 文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員 担 当: 第 2 章・1, 第 3 章・1・2, 第 5 章・1・2 (P8・P12) (P15・P27) (P51・P56)	
(概要) 「学校給食調理員の標準的研修プログラム」に準拠し、衛生管理を充実させるためのステップを明記するとともに、根拠を追及・詳述し、研修を担当する指導者のためのマニュアル。	
5. 「学校給食施設設備の改善事例集」(平成 25(2013)年)(文部科学省) 共著者: 文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員 担 当: 第 3 章・1 (P10・P20)	
(概要) 衛生管理のステップ毎に改善の方法や改善事例をまとめた事例集である。	
6. 「よくわかる栄養教諭一食育の基礎知識— 第二版」(平成 28(2016)年)(同文書院) 編 著: 藤澤良知、芦川修貳、古畑公、田中弘之、田中延子 著: 土谷政代、大田裕美子、白尾美佳、亀田明美、守田真里子、登坂三紀夫、山口蒼生子、梅垣敬三・小河原佳子、堤ちはる、原ゆみ、安倍ちか 担 当: (第 2 章・1, 2 節) (P19・P37)	
(概要) 学校等における食育の推進に栄養教諭の中核的な役割が重要視されている中、栄養教諭の教育養成に当たってどのような養成教育をおこなったらよいかを視点を置いて執筆したもの。 11 章から成り、管理栄養士・栄養士教育の教科課程における公衆栄養学のカリキュラムとの整合性について配慮している。	
7 「栄養教諭のための教育実践演習・栄養教育実習ノート—1 年次から使えるポートフォリオ—」(令和 3(2021)年 2 月)(学建書院)	
監 修: 芦川修貳 編集代表: 田中延子 編集: 守田真里子、高田尚美 著: 秋葉佳子、芦川修貳、安倍ちか、岩田雪子、内田良子、太田裕美子、岸根美絵、後藤純子、島村幸代、高田尚美、高橋和子、竹内佳代子、田中延子、田中広美、土谷政代、飛松佳子、中津井貴子、西内恵子、水嶋真由美、守田真里子、山際昌枝(五十音順)	



	担 当 : (第2章-B-10) (P68・P69) (第2章-F) (P81・P83) (資料) (P103・P105)
主な社会活動	・食育講演会「元気な体と心は食事から～食べ方は生き方・育て方」 (平成26(2014)年)
	・食育講演会「食事と健康～子どもの健やかな成長を願って～」 (平成27(2015)年)
	・食育講演会「食事、その食べ方を考えよう～これからの身体づくりのために今できること～」 (平成27(2015)年)
	・食育講演会「体の栄養・心の栄養～逞しい心と体づくりのために」 (平成27(2015)年)
	・学校栄養士研究発表会指導助言 (平成27(2015)年～令和3(2022)年)
	・学校栄養職員研修会 新規採用・フォローアップ研修講師 (平成28(2016)年)
	・大分市学校給食衛生管理研修会講師 (平成29(2017)年)
	・福岡県筑豊地区栄養教諭・学校栄養職員研修会講師 (平成30(2018)年)
	・「給食月間記念講演会」講師 (平成31(2019)年)
	・学校給食研究協議会「食育講演会講師」 (令和元(2019)年)
所 属 学 会	・行橋京都衛生管理講習会講師 (令和4(2022)年)
	・大分県児童生徒の食生活実態調査「指導助言・講評執筆」 (令和6(2024)年7月～令和7(2025)年2月)
所 属 学 会	日本栄養士会 (昭和51(1976)年～現在に至る)
	日本栄養改善学会 (平成26(2014)年～現在に至る)
	日本学校保健学会 (令和4(2023)年～現在に至る)
受 賞 歴	大分県栄養士会研究発表事例研修会優秀賞 (平成12(2000)年)
	大分県教育委員会教育実践者表彰 (平成14(2002)年)
	大分県教育委員会学校給食功労者表彰 (平成22(2010)年)
	文部科学省学校給食功労者文部科学大臣表彰 (平成23(2011)年)
	日本医師会長表彰 (平成30(2018)年)

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	<p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ 臨床栄養学実習Ⅱ 給食管理実習Ⅰ (臨地実習) <p>[九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション栄養学
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 臨床栄養学 ■ 感染制御学
最終学歴	東京医療保健大学 大学院 博士課程
学位	博士 (感染制御学) 修士 (医療栄養学)
職歴	<p>医療法人(現 社会医療法人)北九州病院 北九州中央病院 (昭和 60(1985)年～平成 10(1998)年)</p> <p>同 北九州病院 本部 業務企画部栄養企画課 課長 (平成 10(1998)年～平成 17(2005)年)</p> <p>同 北九州病院 本部 業務企画部栄養企画 副部長 (平成 17(2005)年～平成 26(2014)年)</p> <p>九州女子大学 家政学部 栄養学科 准教授 (平成 26(2014)年 4 月～平成 28(2016)年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成 28(2016)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>【作成した教科書】</p> <p>栄養科学シリーズ NEXT シリーズ 公衆栄養学 第 5 版 講談社 (平成 27(2015)年) (担当部分概要) 第 9 章「公衆栄養プログラムの展開」 保健所、本庁におけるプログラム展開、高齢期を対象としたプログラム</p> <p>栄養科学シリーズ NEXT シリーズ 公衆栄養学 第 6 版 講談社 (令和元(2019)年) (担当部分概要) 第 9 章「公衆栄養プログラムの展開」 保健所、本庁におけるプログラム展開、高齢期を対象としたプログラム</p> <p>臨床栄養学実習 medical nutrition diet manual 初版 株式会社みらい (令和 2(2020)年) (担当部分概要) 第 1 部「治療食献立の基礎」 治療食と献立、献立作成までの計画</p> <p>臨床栄養学実習 medical nutrition diet manual 第 2 版 株式会社みらい (令和 7(2025)年) (担当部分概要) 第 1 部「治療食献立の基礎」 治療食と献立、献立作成までの計画、調理の基本 その他</p>
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>1. 「Modulatory effects of <i>Bifidobacterium longum</i> BB536 on defecation in elderly patients receiving enteral feeding」 World Journal of Gastroenterology April 14,2013;19(14):2162-2170 共著者名：J.Kondo、A.Abe、K.Shimizu、K.Ogawa、T.Taeko 〔共同研究につき担当部分抽出不可能〕</p> <p>(概要) 経管栄養で管理している高齢者を対称に、試験 1)ではプラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の 2 群に分け、試験 2)ではビフィズス菌高用量群と低用量群とプラセボ群の 3 群に分け、便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめた。</p> <p>2. 「酸味調味料の物性特性と嚥下困難者の栄養状態」 日本医療企画 Human Nutrition 2013.12 月 No27 80-89 共著者名：近藤順子、原田薫雄、真溪香代子、道脇幸代、下田妙子 〔共同研究につき担当部分抽出不可能〕</p> <p>(概要) 嚥下機能が低下した患者に提供する料理において酢は揮発性成分が咽頭を刺激し「むせ」を誘発する。揮発性の酸の相対存在量を削減した調味料を使用した料理の 摂取がおよぼす嚥下機能や栄養状態への影響を調査した。</p>



3. 「高齢糖尿病患者に対する L-イソロイシン配合濃厚流動食の血糖コントロールおよび栄養状態におよぼす影響」

日本臨床栄養協会 原著論文 New Diet Therapy 2014.12 月.Vol30 No.3 15-22

共著者名：近藤順子、岡田昌子、吉岡承美、遠藤美香、宮本美知子、蓮尾裕

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

(概要)

耐糖能異常を伴う高齢経管栄養患者において、アミノ酸 L-イソロイシンが配合されたディムベストを使用した症例において血糖コントロールと栄養状態の維持改善の結果をまとめた。

4. 「二次性サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助飲料摂取の併用効果」

東筑紫短期大学 研究紀要 48、299-307、2017

共著者名：近藤順子、阿部亜希恵、岡田昌子、川添恵理子、吉岡承美、古谷恭子、白幡聰

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

(概要)

経管栄養を施行されている二次性サルコペニア肥満患者を対象に、ベッドサイドリハビリテーションにビタミン D と BCAA の摂取を併用することで骨格筋の減少を抑えることが可能であるか、介入試験の結果をまとめた。

5. 「女子学生のボディ・イメージの願望と現状について」

東筑紫短期大学 研究紀要 48、321-331、2017

共著者名：南里美、遠藤景子、近藤順子

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

(概要)

女子学生のボディ・イメージやその願望理由など意識調査を行い、現状の体組成や BMI との差異、隠れ肥満の状況を把握し、誤った体型認識の是正と適正体重の維持と食生活改善に繋げる取組みをまとめた。

6. 「Effects of paraprobiotic *Lactobacillus paracasei* MCC1849 supplementation on symptoms of the common cold and mood states in healthy adults」

Journal : Beneficial Microbes: 9 (6) - Pages: 855 – 864、2018

共著者名：M. Murata, J. Kondo, N. Iwabuchi, S. Takahashi, K. Yamauchi, F. Abe, K. Miura

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

(概要)

健康な成人女性を対象に *L.paracasei* MCC1849 菌末 1 包あたり 100 億個あるいは 300 億個を摂取する群およびプラセボ群をランダムに分け、12 週間摂取後、風邪に関する自覚症状の記録および気分プロフィール検査を実施し、その効果について結果をまとめた。

【学会発表】

1. クオリティを考慮した[お惣菜ムース]既製品化への検討

第 13 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (平成 19(2007)年 9 月)

メーカー依頼の嚥下食「お惣菜ムース」開発までのプロセスを報告。

2. 北九州古賀病院での食形態改善の取り組み

第 16 回日本療養病床協会全国研究会 (平成 20(2008)年 9 月)

きざみ食廃止の試みについて報告。

3. 病院職員を対象とした健診結果から肥満、血糖、中性脂肪の比較検討

第 55 回日本栄養改善学会学術総会 (平成 20(2008)年 9 月)

病院職員の健診結果約 2,000 名のデータから BMI から肥満に該当する人の血糖と中性脂肪の値を健康者と比較検討した結果を報告。

4. 嚥下食における医療連携

第 34 回福岡県栄養改善学会 (平成 20(2008)年 9 月)

嚥下食の物性評価を実施し、段階別障害レベルと合わせて地域で連携する7対応について報告。

5. 病院職員を対象とした健診結果の階層化と階層別食習慣との関連

第 56 回日本栄養改善学会学術総会 (平成 21(2009)年 9 月)

750 名の健診結果から BMI を 5 群に階層化し生化学検査結果および食習慣との関連を報告。

**6. メタボリックシンドローム群の BMI と食習慣との関連**

第 13 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 22(2010)年 1 月)

メタボリックシンドローム群と健常群の BMI を基本にして生化学検査結果と食習慣の関連について報告。

7. 新規な介護用ソースを用いた嚥下食メニューの理化学物性と嚥下適正評価

第 16 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

(平成 22(2010)年 9 月)

嚥下障害者用のソースを用いて作成した嚥下食の物性評価と VF 検査による摂取状況から適正評価を行った結果を報告。

8. 高齢者に対するビフィズス菌長期投与による免疫賦活作用と感染防御効果

第 57 回日本栄養改善学会学術総会

(平成 22(2010)年 9 月)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 5 週間摂取した群の体温、便性状等の比較検討結果を報告。

9. プロバイオテックビフィズス菌の長期摂取による高齢患者の便通性状および生体防御に対する影響の検討

第 14 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 23(2011)年 1 月)

嚥下障害者用のソースを用いて作成した嚥下食の物性評価と VF 検査による摂取状況から適正評価を行った結果を報告。

10. プロバイオテックビフィズス菌の摂取による高齢患者の便中細菌叢および便通性状に対する影響の検討

第 15 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 24(2012)年 1 月)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめ。

11. Effects of the enteral nutrition containing probiotic Bifidobacterium longum BB536 on bowel movement and immunological parameters of the elderly patients

第 16 回 International Congress of Dietetics (国際栄養士会議) (平成 24(2012)年 9 月)

【臨床栄養療法部門賞 受賞】

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果を報告

12. ビフィズス菌 BB536 の長期投与が経腸栄養高齢患者の便性状および腸内菌叢におよぼす影響

第 28 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

(平成 25(2013)年 2 月)

経管栄養で管理している高齢者を 3 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 中用量群と高用量群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果および腸内細菌叢への影響を報告。

13. 経管栄養管理の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査

第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

(平成 26(2014)年 2 月)

経管栄養で管理している高齢者において、寝たきりの不活動での体重増加、筋肉量の低下、体脂肪の増加による、サルコペニア肥満の実態調査を行い発表した。

14. 寝たきり状態の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査

第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 27(2015)年 1 月)

経管栄養で管理している高齢者においてサルコペニア肥満の実態調査を行い、摂取栄養量との関連について発表した。

15. 脳卒中クリニカルパスへの歯科専門検診・口腔ケア導入の取組みと効果

第 62 回日本栄養改善学会学術総会

(平成 27(2015)年 9 月)

誤嚥性肺炎を防止するために、クリニカルパスに歯科医師専門の口腔ケアを導入し栄養状態および血液検査等の調査を実施した。その効果について発表した。

16. サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助食品摂取の併用効果

第 31 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

(平成 28(2016)年 2 月)

サルコペニア肥満患者を対象にリハビリテーションと筋肉合成に関与するビタミン D と分岐鎖アミノ酸を豊富に含む栄養補助食品を組み合わせることで体組成の変化、栄養状態、身体機能への効果について報告した。



	<p>17. 乳酸菌 <i>Lactobacillus paracasei</i> 菌体の摂取による健康女性の感冒症状に対する効果 日本食品免疫学会2016 (平成28(2016)年11月)</p> <p><i>Lactobacillus paracasei</i> MCC1849株菌体の継続摂取が健康者の健康状態および気分状態に及ぼす効果について報告した</p>
	<p>18. Effects of <i>Lactobacillus paracasei</i> MCC1849 supplementation on symptoms of the common cold and mood states in healthy adults: A randomized, double-blind, placebo-controlled trial International Union of Microbiological Societies (国際生物学連合) 2017 (平成29(2017)年7月)</p> <p><i>Lactobacillus paracasei</i> MCC1849 株菌体の継続摂取により感冒に罹患しやすい被験者において発症スコアを低減し、前向きで望ましい気分の維持に役立つ効果について発表した。</p>
主な社会活動	<p>【調査研究】厚生労働省 長寿科学総合研究事業 (北海道大学 大浦武彦教授) 「褥瘡の予防と治療に関する研究」～栄養介入の効果の検討 (平成 20(2008)年 4 月～平成 22(2010)年 3 月)</p> <p>(概要) 厚生労働省の研究事業 日本全国横断研究に参画。北九州病院グループにおける対象患者の臨床データをまとめて提出をおこなった。</p>
	<p>【周望学舎】講師 (実習および講義) 主催 北九州市立年長者研修大学校 (平成 30(2018)年 8 月～令和元(2019)年 8 月)</p> <p>(概要) 高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の推進を目的に行われている研修会の一環として、疾病予防をテーマに調理実習を交え講義を行った。</p>
	<p>【北九州市立年長者研修大学校周望学舎シニアカレッジ】講師 北九州市との連携事業 (令和 4 年(2022)年 9 月 14 日)</p> <p>(概要) 「元気にシニアライフを愉しもう 2022」 「むせ」ってなに？嚥下について学ぼう！ をテーマにむせや嚥下のメカニズムを理解することにより誤嚥性肺炎の予防について学ぶための講義を行った。</p>
	<p>【職務上の実績】</p>
	<p>1. 脳血管疾患 地域医療連携体制構築 (平成 18(2006)年 4 月～平成 20(2008)年 3 月) 北九州市の脳卒中連携パス稼働の数年前から、急性期・回復期・慢性期の脳卒中連携パスの開発とシステム運用を実施してきた。地域の開業医や地域住民への早期発見・早期治療の啓蒙活動にも参画した。</p>
<p>2. 医療材料管理システムの構築 (平成 19(2007)年 4 月～平成 26(2014)年 3 月) 入院患者の高齢化・重症化に伴い医療材料のコストが年々増加傾向にあり、医療材料について発注・棚卸・受払の管理システムの構築、スケールメリットを活かした価格交渉を行い、コスト削減を図った。各施設医療材料発注担当者へABC分析や在庫回転率による管理体制についても教育指導を実施した運用活用を導入。</p>	
<p>3. 西日本看護専門学校 栄養学非常勤講師 (平成 20(2008)年 11 月～平成 26(2014)年 3 月) 西日本看護専門学校において2年生を対象に「栄養学」の講義を担当。臨床現場で即戦力として役立つように、教科書では知ることができない医療現場での経験を基に授業を展開してきた。また、糖尿病の治療食調理実習など現場での患者教育に活かせる内容の講義を盛り込み実施した。</p>	
<p>4. 商品開発 メーカーからの協力依頼により商品開発に参画</p> <p>①「エンジョイゼリー」 製造販売元依頼：森永乳業(株)クリニコ</p> <p>②「もぐもぐお惣菜ムース」 製造元依頼：熊本県 デリテック(株) 販売：北進産業(株)</p> <p>③「ジャネフなめらかプラス」(メーカー特許取得) 製造販売元依頼：キューピー(株)</p> <p>④「豆腐やわらかソバテ」 製造販売元依頼：不二精油(株)</p>	
<p>5. BCP (業務継続計画) 体制整備 (平成 23(2011)年 10 月～平成 26(2014)年 3 月)</p>	



大規模な震災発生により医療としての業務継続計画（BCP）の体制整備について要望が高まり、北九州市での圧倒的介護療養病床の高いシェア率である病院グループについては医療として地域に果たす役割の大きさから、緊急連絡体制の推進および対応すべき基盤となる項目の構築を行った。

【講演活動】

1. 「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演
業務用電化厨房セミナー 九州電力 宮崎営業所 (平成18(2006)年10月)
2. 「北九州病院グループにおける段階嚥下食の対応」講演
佐賀栄養士セミナー 九州電力 佐賀営業所 (平成19(2007)年2月)
3. 「クオリティを考慮した“お惣菜ムース”既製品化への検討」講演
業務用電化厨房セミナー 九州電力 鹿児島営業所 (平成19(2007)年7月)
4. 「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演
業務用電化厨房セミナー 九州電力 宮崎営業所 (平成19(2007)年8月)
5. 「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演
佐賀栄養士勉強会 佐賀栄養士勉強会 (平成19(2007)年9月)
6. 「厨房環境の改善 実測データを交えて」講演
業務用電化厨房セミナー 九州電力 北九州イリス (平成20(2008)年11月)
7. 「脳卒中の医療連携」脳外科医師と管理栄養士の取り組み 講演
医療従事者対象 トークセミナー 北九州商工会議所 (平成23(2011)年3月)
8. 「栄養管理から考える褥瘡対策」講演
特定医療法人勇愛会 大島病院 褥瘡・NST メンバー対象 (平成24(2012)年10月)
9. 「看護臨床研究の基本から研究発表を行うまで」シリーズ4回講演
門司掖済会病院 看護師対象 (平成27(2015)年5月～平成28(2016)年3月)
10. 「災害時の医療機能継続における栄養士の役割～専門職としての事前準備と緊急時の対応～」
第62回日本栄養改善学会学術総会 ランチョンセミナー座長 (平成27(2015)年9月)
共 催：西部ガス株式会社
11. 「美味しく食べるために ～食べさせケアに配慮して～」講演
2018年 医療・介護福祉食品展示会 セミナー講師 (平成30(2018)年10月)
共 催：キューピー株式会社

所属学会	日本栄養改善学会会員 (平成7(1995)年4月～現在に至る)
	日本糖尿病協会会員 (平成10(1998)年4月～現在に至る)
	日本病態栄養学会会員 評議員 (平成12(2000)年4月～現在に至る)

受賞歴	福岡県栄養士大会 第27回栄養改善学会 功労者表彰 (平成13(2001)年9月)
	日本栄養士会 会長表彰 (平成23(2011)年9月)
	第16回 International Congress of Dietetics 臨床栄養療法部門賞 (平成24(2012)年9月)

ワツジ トモオ
和辻 智郎 WATSUJI tomo-o 教授

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科	
担 当 科 目	<p>【食物栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物学 ・基礎化学 ・生化学 ・食品衛生学 ・食品衛生学実験 ・フードスペシャリスト論 ・食品の官能評価・鑑別演習 ・初年次教育・キャリアアップ演習Ⅰ ・キャリアアップ演習Ⅱ 	
専 門 分 野	■ 微生物学	
最 終 学 歴	筑波大学大学院 農学研究科 応用生物化学専攻 博士課程修了	
学 位	博士（農学）	
職 歴	<p>日本大学生物資源科学部 21 世紀 COE 研究員 (平成 15 年 4 月～平成 19 年 3 月)</p> <p>海洋研究開発機構 ポスドク研究員 (平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月)</p> <p>海洋研究開発機構 研究員 (平成 22 年 4 月～平成 28 年 3 月)</p> <p>海洋研究開発機構 特任技術研究員 (平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)</p> <p>東京大学 農学生命科学研究科 特任助教 (平成 29 年 4 月～平成 29 年 8 月)</p> <p>海洋研究開発機構 特任技術スタッフ (平成 29 年 9 月～平成 30 年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成 31 年 4 月～令和 4 年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (令和 4 年 4 月～現在に至る)</p>	
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>『環境と微生物の辞典』（共著）朝倉書店 (平成 26 年 7 月) 第 150 頁、深海生物に共生する微生物の項目を担当。</p> <p>『深海生物ビジュアル大図鑑』（共著）海泉社 (平成 26 年 8 月) スケーリーフットとゴエモンコシオリエビの生体に関する項目を担当。</p>	
	<p>【学術論文等】</p> <p>Nakagawa, S., Shimamura, S., Takaki, Y., Suzuki, Y., Murakami, S.-i., Watanabe, T., Fujiyoshi, S., Mino, S., Sawabe, T.-o., Maeda, T., Makita, H., Nemoto, S., Nishimura, S.-I., Watanabe, H., Watsuji, T.-o., and Takai, K. Allying with armored snails: the complete genome of gammaproteobacterial endosymbiont. (鎧貝と共生するガンマプロテオバクテリアの内部共生細菌の完全ゲノム) (共著) ISME J., vol. 8, pp. 40-51 (平成 26 年 1 月)</p> <p>【概要】 本研究ではインド洋の深海性巻貝スケーリーフットが体内に宿す内部共生菌のゲノム解読とスケーリーフットにおける炭酸固定の活性測定が行われた。これにより、その内部共生菌は独立栄養性化学合成細菌であることや宿主の栄養源であることが明らかとなった。 担当部分：インド洋での生体サンプルの捕獲で貢献した。</p> <p>Watsuji, T.-o., Yamamoto, A., Takaki, Y., Ueda, K., Kawagucci, S., and Takai, K. Diversity and methane oxidation of active epibiotic methanotrophs on live <i>Shinkaia crosnieri</i>. (ゴエモンコシオリエビに付着するメタン酸化細菌のメタン酸化活性と多様性) (共著) ISME J., vol. 8, pp. 1020-1031 (平成 26 年 5 月)</p> <p>【概要】 本研究ではゴエモンコシオリエビの体毛に付着する生きた細菌の分子系統解析やメタン酸化活性の測定を行った。これらの結果、現在においてもゴエモンコシオリエビは活性を有するメタン酸化細菌を体に付着させていることが証明された唯一の動物となった。本論文は微生物学の専門誌で最もインパクトのある nature の姉妹紙に掲載された。 担当部分：研究の発想、計画、実施、執筆を主に行って第一著者と責任著者になった。</p>	

Konishi, M., Nishi, S., Fukuoka, T., Kitamoto, D., Watsujii, T.-o., Nagano, Y., Yabuki, A., Nakagawa, S., Hatada, Y., and Horiuchi, J.-i.

Deep-sea *Rhodococcus* sp. BS-15, lacking the phytopathogenic *fas* genes, produces a novel glucotriose lipid biosurfactant.

(植物病原性 *fas* 遺伝子を欠損し、新規のグルコトリオース脂質バイオサーファクタントを生産する深海性 *Rhodococcus* sp. BS-15)

(共著) Mar. Biotechnol., vol. 16, pp. 1929-1940 (平成 26 年 8 月)

【概要】

本研究では深海でサンプリングしたグラム陽性菌 *Rhodococcus* sp. BS-15 が新規の生物系解明活性剤を生産することを見出した。

担当部分：本菌を含む堆積物を深海でサンプリングし、開発したメタン添加水槽でその堆積物を維持・管理することで研究に貢献した。

Watsujii, T.-o., Takano, H., Yamabe, T., Tamazawa, S., Ikemura, H., Ohishi, T., Matsuda, T., Shiratori-Takano, H., Beppu, T., and Ueda, K.

Analysis of the tryptophanase expression in *Symbiobacterium thermophilum* in a coculture with *Geobacillus stearothermophilus*.

(*Geobacillus stearothermophilus* との共培養における *Symbiobacterium thermophilum* のトリプトファナーゼ発現の解析)

(共著) Appl. Microbiol. Biotechnol., vol. 98, pp. 10177-10186 (平成 26 年 12 月)

【概要】

共生細菌 *Symbiobacterium thermophilum* (ST) は生育支持菌 *Geobacillus stearothermophilus* が生産する生育因子によって増殖が活性化される。本研究では生育因子が二酸化炭素とアンモニアであることを突き止め、それらを ST に与えるとトリプトファナーゼの発現が活性化されることを明らかにした。

担当部分：研究の発想、計画、実施を主に行って第一著者になった。

Watsujii, T.-o., Yamamoto, A., Motoki, K., Ueda, K., Hada, E., Takaki, Y., Kawagucci, S., and Takai, K.
Molecular evidence of digestion and absorption of epibiotic bacterial community by deep-sea crab *Shinkaia crosnieri*.

(ゴエモンコシオリエビによる外部共生菌の消化と吸収の分子的証明) (共著)

ISME J., vol. 9, pp. 821-831 (平成 27 年 4 月)

【概要】

本研究ではゴエモンコシオリエビが体毛に付着する外部共生細菌を摂餌によって栄養源とすることを実証した。これにより、無脊椎動物と外部共生菌間に栄養的な共生が存在することを世界で初めて実証した。本論文は菌類を含む微生物学の専門誌で最もインパクトのある *nature* の姉妹紙 (ISME J) に掲載された。

担当部分：研究の発想、計画、実施、執筆を行って第一著者と責任著者になった。

Fujiyoshi, S., Tateno, H., Watsujii, T.-o., Yamaguchi, H., Fukushima, D., Mino, S., Sugimura, M., Sawabe, T., Takai, K., and Sawayama, S.

Effects of Hemagglutination Activity in the serum of a deep-sea vent endemic crab, *Shinkaia crosnieri*, on non-symbiotic and symbiotic bacteria.

(非共生細菌及び共生細菌に対するゴエモンコシオリエビの血清の血球凝集活性の効果)

(共著) Microb. Environ., vol.3, pp. 228-234 (平成 27 年 9 月)

【概要】

深海の固有甲殻類ゴエモンコシオリエビは腹側の体毛に付着する外部共生細菌を摂餌して栄養源としている。本研究ではゴエモンコシオリエビの血リンパ成分が外部共生菌と特異的に結合することを明らかにした。この結果より、ゴエモンコシオリエビの血リンパ中成分は共生細菌の獲得・維持または生体防御に重要な機能を有することが示唆された。

担当部分：ゴエモンコシオリエビの捕獲や血リンパ成分の採取において貢献した。

Thornton B., Bodenmann A., Pizarro O., Williams S., Friedman A., Nakajima R., Takai K., Motoki K., Watsujii T.-o., Hirayama H., Matsui Y., Watanabe H. and Ura T.

Biometric assessment of deep-sea vent megabenthic communities using multi-resolution 3D image reconstructions.

(多重解像度 3D イメージ再構築を用いた深海熱水性大型底生動物のバイオメトリック評価) (共著)



Deep Sea Res. Part I Oceanogr. Res. Pap., vol. 116, PP. 200–219. (平成 28 年 1 月)

【概要】

沖縄トラフにおける伊平屋北熱水フィールドの NBC サイト (1.2 ha) を海底より 8 m の高度から潜水艇の底に取付けた 3D スキャン装置とカメラで撮影することで、NBC サイトにゴエモンコシオリエビが 47, 335 匹存在することや、全有機炭素分析によって NBC サイトのゴエモンコシオリエビのバイオマスが 42 kg-C と見積もられることなどを示した。

担当部分：ゴエモンコシオリエビの捕獲と全有機炭素分析を行った。

Kawagucci S., Miyazaki J., Noguchi T., Okamura K., Shibuya T., Watsuji T.-o., Nishizawa M., Watanabe H., Okino K., Takahata N., Sano Y., Nakamura K., Shuto A., Abe M., Takaki Y., Nunoura T., Koonjul M., Singh M., Beedessee G., Khishma M., Bhojroo V., Bissessur D., Kumar L. S., Marie D., Tamaki K. and Takai K.

Fluid chemistry in the Solitaire and Dodo hydrothermal fields of the Central Indian Ridge.

(中央インド洋海嶺におけるソリティア及びドードー熱水フィールドの流体化学) (共著)
Geofluids, vol. 16, PP. 988-1005. (平成 28 年 1 月)

【概要】

本研究ではこれまでに発見した中央インド洋海嶺のソリティア熱水フィールドとドードー熱水フィールドで噴き出す熱水を無機化学的に分析し、特徴付けた。

担当部分：それぞれのフィールドの熱水に含まれる硫化水素濃度の分析を行なった。

Nozaki T., Ishibashi J., Shimada K., Nagase T., Takaya Y., Kato Y., Kawagucci S., Watsujii T.o., Shibuya T., Yamada R., Saruhashi, T., Kyo, M and Takai K.

Rapid growth of mineral deposits at artificial seafloor hydrothermal vents.

(人工熱水噴出孔における鉱物沈殿物の急速な成長(共著))

Scientific Reports, vol. 6, doi: 10.1038/srep22163 (平成 28 年 2 月)

【概要】

沖縄トラフの熱水域を掘削船「ちきゅう」で掘削して得られた深海人工熱水噴出孔では短期間でチムニーが生成されることが分かった。本研究ではそのチムニーの全岩化学分析を行うことで、金、銀、銅、亜鉛など有用金属元素が高濃度で含まれていることを明らかにした。

担当部分：人工熱水噴出孔に生成したチムニーの採取に貢献した。

Watsujii T.o., Hada E., Miyazaki M., Ichimura M. and Takai K.

***Thiomicrospira hydrogeniphila* sp. nov., a novel aerobic, hydrogen- and sulfur-oxidizing chemolithoautotroph isolated from a seawater tank containing a block of beef tallow.**

(牛脂を含む海水培養槽から単離された新種の好氣的、水素酸化性、硫酸酸化性化学合成細菌 *Thiomicrospira hydrogeniphila*) (共著)

Int. J. Syst. Evol. Microbiol., vol. 66, PP. 3688-3693. (平成 28 年 9 月)

【概要】

培養槽の海水に牛脂を加えて、硫酸酸化細菌を集積し、そこから新種の硫酸酸化細菌を単離して特徴付けた。硫酸酸化細菌の集積や単離では申請者が持つ栄養学的知見、微生物制御技術、単離培養技術を活かした。特徴付けでは分子生物学的手法を用いた系統解析、増殖速度の算出、ビタミン要求性試験などを行った。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者及び責任著者になった。

Mino S., Nakagawa S., Makita H., Toki T., Miyazaki J., Sievert S. M., Polz M. F., Inagaki F., Godfroy A., Kato S., Watanabe H., Nunoura T., Nakamura K., Imachi H., Watsujii T.o., Kojima S., Takai K. and Sawabe T.

Chemolithoautotroph *Sulfurimonas* at deep-sea hydrothermal vents.

(深海熱水噴出域において普遍的に存在する中温性化学合成細菌 *Sulfurimonas* の流行性)

(共著) ISME J, vol.11, PP. 909-919. (平成 29 年 4 月)

【概要】

独立栄養性硫酸酸化細菌の *Sulfurimonas* は熱水噴出域に普遍的に存在するが、本研究ではより詳細な系統解析を施すことで、普遍的に見られる *Sulfurimonas* にも地理的な特異性があること示した。

担当部分：沖縄トラフと南マリアナトラフにおける熱水のサンプリングで貢献した。

Watsujii T.o., Tsubaki R., Chen C., Nagai Y., Nakagawa S., Yamamoto M., Nishiura D., Toyofuku T. and Ken Takai K.

Cultivation mutualism between a deep-sea vent galatheid crab and its chemosynthetic epibionts.(深海コシオリエビと化学合成性外部共生菌間の栽培的相利共生) (共著)

Deep Sea Res. Part I Oceanogr. Res. Pap., vol.127, pp.13-20 (平成 29 年 4 月)

【概要】

本研究ではゴエモンコシオリエビは付属肢で起こした水流を体に付着する化学合成細菌に与えて、その代謝活性を促進させることを実験室レベルで証明した。これまでに宿主動物が付着性化学合成細菌の代謝活性を促進させる実験的証拠はなかったことから、本研究は付着性化学合成細菌を宿主動物が栽培することを強く示唆する初めての論文となった。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者及び責任著者になった。

藤吉奏, 和辻智郎

深海動物に付着する体外共生菌の機能と役割の解明(共著)

生物科学 vol. 69(4), pp. 231-236. (平成 30 年 7 月)

【概要】

世界の深海熱水域には体に細菌(外部共生菌)を付着させた動物が繁栄している。これまでにゴエモンコシオリエビを用いて外部共生菌相中に硫酸酸化細菌やメタン酸化細菌が存在することや宿主動物が外部共生菌を収獲し、栄養源とすることを世界に先駆けて実証した。

本論文ではゴエモンコシオリエビの研究を通じて深海外部共生研究が抱える主要な問題を解決してきた点を述べた。

Maruyama T., Watsujii T.-o., Takahashi T., Kayama Watanabe H., Nagai Y., Fujiwara Y., Toyofuku T., Nemoto S., Koyano Y., and Thornton B.

***In situ* vital staining for chasing the galatheid crab *Shinkaia crosnieri* on deep-sea floor**
(深海底に生息するゴエモンコシオリエビを追跡するための現場生染色)(共著)

JAMSTEC Rep. Res. Dev., vol. 27, pp.1-11 (平成 30 年 9 月)

【概要】

生かした状態でゴエモンコシオリエビの体毛や外骨格を Coomassie Brilliant Blue R250 (CBB)で良く染色できることが分かった。また、染色後の個体は飼育下でその色を5ヶ月間以上保ち、8ヶ月間以上生きた。深海の現場で CBB 染色した個体は染色して3日後においても生息場所をほとんど移動しないことが分かった。

担当部分：生きたゴエモンコシオリエビの供与と飼育、論文の校閲を担当した。

Watsujii T.-o., Motoki K., Hada E., Nagai Y., Takaki Y., Yamamoto A., Ueda K., Toyofuku T. Yamamoto H. and Takai K.

Compositional and functional shifts in the epibiotic bacterial community of *Shinkaia crosnieri* Baba & Williams (a squat lobster from hydrothermal vents) during methane-fed rearing (メタン添加水槽で飼育したゴエモンコシオリエビの外部共生菌の菌相構造と機能の変遷) (共著)

Microb. Environ., vol.33(4), pp. 348-356 (平成 30 年 12 月)

【概要】

ゴエモンコシオリエビは腹側の体毛に硫黄酸化細菌とメタン酸化細菌を付着共生させている。本研究ではメタン添加水槽で飼育したゴエモンコシオリエビが体毛の菌相から硫黄酸化細菌を失い、メタン酸化細菌を維持することを示した。本研究は化学合成細菌を含む外部共生菌相の構造が環境に強く影響されることを初めて示す論文となった。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者及び責任著者になった。

Okada, S., Chen, C., Watsujii, T.-o., Nishizawa, M., Suzuki, Y., Sano, Y., Bissessur, D., Shigeru Deguchi, S. and Takai, K.

The making of natural iron sulfide nanoparticles in a hot vent snail (共著)

Proc. Natl. Acad. Sci. USA vol. 116 (41), pp. 20376-20381 (令和元年 9 月)

【概要】

インド洋の深海熱水域に生息する巻貝であるスケーリーフットの貝殻やウロコは硫化鉄で覆われているが、その生成機構は不明であった。本論文ではスケーリーフット自身が放出した硫黄成分と環境中の鉄イオンが反応して、硫化鉄の結晶粒子を作り出すことを明らかにした。

担当部分：研究の計画、現場環境に貝殻や鱗の設置などを行った。

Miyazaki, J., Ikuta, T., Watsujii, T.-o., Abe, M., Yamamoto, M., Nakagawa, S., Takaki, Y., Nakamura, K. and Takai, K.

Dual energy metabolism of the *Campylobacterota* endosymbiont in the chemosynthetic snail *Alviniconcha marisindica* (共著)

ISME J, vol.14, PP. 1273-1289. (令和 2 年 2 月)

【概要】

深海熱水域に生息する巻貝であるアルビン貝はエラに細菌を内部共生させている。本研究では内部共生細菌が硫化水素だけでなく、水素をエネルギー源として化学合成することを実験的に初めて証明した。

担当部分：アルビン貝の内部共生菌が硫化水素や水素をエネルギー源として炭酸固定を行うことや内部共生菌の黄酸化活性や水素酸化活性を測定した。また、実験部分の方法と結果を執筆した。

Sun J., Chen C., Miyamoto N., Li R., Sigwart J. D., Xu T., Sun Y., Wong W. C., Ip, C. H. J., Zhang W., Lan Y., Bissessur D., Watsujii T.-o., Watanabe H., Takaki, Y., Ikee, K., Fujii, N., Yoshitake, K., Jian-Wen Qiu, J., Takai, K. and Qian, P.-Y.

The Scaly-foot Snail genome and implications for the origins of biomineralised armour (共著)

Nature Communications, vol.11, 1657 (2020). (令和 2 年 4 月)

【概要】

インド洋の深海熱水域に生息するスケーリーフットは巻貝であるにもかかわらず鱗をもつというユニークな特徴を有する。本論文ではスケーリーフットの全ゲノムの解読に成功し、スケーリーフットの硬組織(貝殻と鱗)形成に関与する可能性のある 25 の転写因子を同定した。そして、これらの転写因子はスケーリーフ

ットの鱗特有ではなく、カンブリア爆発まで遡れる硬組織形成に広く関わる一連の遺伝子「ツールキット遺伝子」であり、そのツールキットの使い方や使う場所が変わることで様々な硬組織が進化してきたことが示唆された。

担当部分：サンプルの提供と論文の校閲を担当した。

K Motoki, T. Watsuji, Y Takaki, K Takai, W Iwasaki

Metatranscriptomics by In Situ RNA Stabilization Directly and Comprehensively Revealed Episymbiotic Microbial Communities of Deep-Sea Squat Lobsters (共著)

Am Soc Microbiol, vol. 5, e00551-20 (2020). (令和2年10月)

【概要】

生物のRNAは非常に分解されやすいことから、環境微生物学においてRNA解析を行う場合にはサンプリング直後にRNAを固定し、その分解を防ぐことが望まれる。そこで、本論文では新たに開発した装置を用いて深海微生物のRNAを現場固定したものと船上固定もので比較解析した。その結果、どのような細菌が固定方法に影響を受けるのかを明らかにした。

担当部分：研究計画、現場RNA固定法の開発と実施、論文の校閲を担当した。

Watsuji, T., Naka, A., Morita, Y. and Kurahashi M.

Effect of temperature and dissolved oxygen on gravity sedimentation of the unicellular alga *Dunaliella salina* (共著)

Ann. Microbiol. vol. 71, Article number: 25 (令和3(2021)年7月)

【概要】

微細藻類バイオマスは有望なバイオ燃料と注目されるが、培養後に微細藻類を回収するコストの高さが障壁となっている。本論文では、微細藻類であるドナリエラの重力沈殿による回収率を好気条件と嫌気条件で経時的に観測した。そして、ドナリエラの回収率に酸素濃度は影響しないことや遮光するだけで効果的にドナリエラの沈殿物を得られることを示した。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者になった。

和辻智郎

「底の尖った縄文土器とアニミズム文化の関係性」(単著)

東筑紫短期大学研究紀要 第55号 (令和6(2024)年12月)

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行った。

【その他論文等】

「深海外部共生研究分野の成果と展望」(単著)

日本微生物生態学会誌, vol. 32, pp. 4-5. (平成29年4月)

【概要】

深海外部共生研究の長年の謎であった外部共生菌の化学合成性機能や栄養源としての役割をゴエモンコシオリエビを用いて解き明かしてきた歴史と今後の深海外部共生研究の展望を述べた。

トピックス「深海で営まれる未知の“農業”、餌を自家栽培するエビ」(単著)

バイオサイエンスとインダストリー, vol. 76, pp. 38-39. (平成30年1月)

【概要】

これまでに宿主動物が付着性化学合成細菌の代謝活性を促進させる実験的証拠はなかった。本論文ではゴエモンコシオリエビが付属肢で起こした水流を体に付着する化学合成細菌に与えて、その代謝活性を促進させることを実験室レベルで証明したことやゴエモンコシオリエビが餌となる付着性化学合成細菌を宿主動物が栽培する可能性が高いことを述べた。

目で見えるバイオ「深海エビに摂食された腸内細菌を見る」(単著)

バイオサイエンスとインダストリー, vol. 76, pp. 8-9. (平成30年1月)

【概要】

ゴエモンコシオリエビの腹側の体毛に付着する外部共生菌をクリスタルバイオレットで青く染めてから24時間飼育すると、ゴエモンコシオリエビの腸内に染色菌体が見出された。この方法でゴエモンコシオリエビが外部共生菌を食べていることを直接的に証明したことを述べた。

milsil 「自分の体で細菌を育てて食べる！？ゴエモンコシオリエビ」(単著)

国立科学博物館情報誌, vol. 16, No. 5, pp. 26-29. (令和5年9月)

【概要】



これまでにゴエモンコシオリエビが、腹側の体毛に付着する外部共生菌をエサとして食べることを実証した。そして、本誌ではゴエモンコシオリエビが外部共生菌に積極的に水流を与えて育てていることを実験室レベルで証明したことを述べた。

【学会発表等】

「深海底熱水活動域に生息する化学合成微生物の分布様式と集団構造の解明」

美野さやか, 中川聡, 牧田寛子, 宮崎淳一, 和辻智郎, ほか12名

Blue Earth 2014、東京 (平成 26 年 2 月)

「硫化水素添加水槽を用いたシロウリガイの飼育」

長井裕季子, 豊福高志, 野牧秀隆, 和辻智郎, 生田哲朗, 高木善弘, 吉田尊雄, 滋野修一, 井上広滋, 小西正朗

Blue Earth 2014、東京 (平成 26 年 2 月)

「シチヨウシンカイヒバリガイ共生系は実験室でも化学合成できるのか?」

長井裕季子, 豊福高志, 野牧秀隆, 和辻智郎, 生田哲朗, 高木善弘, 吉田尊雄, 滋野修一, 井上広滋, 小西正朗
日本地球惑星科学連合 連合大会 2014 年大会、横浜 (平成 26 年 4 月)

"Global biogeography and population structure of deep-sea vent chemolithoautotrophs inferred from multilocus sequence analysis (MLSA)"

Mino S., Nakagawa S., Makita H., Toki T., Miyazaki J., Kato S., Watsui T-o. ほか7名

ISME15, Seoul, South Korea (平成 26 年 8 月)

「ゴエモンコシオリエビに共生する微生物の役割とは?」

和辻智郎, 山本麻未, 元木香織, 上田賢志, 羽田枝美, 高木善弘, 川口慎介, 高井研

第 54 回 生命科学夏の学校、湖西 (平成 26 年 9 月)

「ゴエモンコシオリエビのエサは胸毛に飼うバクテリアである」

和辻智郎, 山本麻未, 元木香織, 上田賢志, 羽田枝美, 高木善弘, 川口慎介, 高井研

環境微生物系学会合同大会 2014、浜松 (平成 26 年 10 月)

「共生メタン酸化細菌を維持させてゴエモンコシオリエビを飼う」

元木香織, 山本麻未, 長井裕季子, 羽田枝美, 上田賢司, 豊福高志, 高井研, 和辻智郎

Blue Earth 2015、東京 (平成 27 年 3 月)

「硫化水素添加水槽を用いたシロウリガイ類飼育」

長井裕季子, 豊福高志, 多米晃裕, 植松勝之, 和辻智郎, 生田哲朗, 高木善弘, 吉田尊雄, 小西正朗

Blue Earth 2015、東京 (平成 27 年 3 月)

"Habitat segregation in transition zones at hydrothermal vent fields in the Okinawa Trough, northwestern Pacific"

Watanabe H., Yamamoto M., Yahagi T., Ogura T., Takahashi Y., Nakamura M., Seo M., Miyake H., Kojima S., Watsui T-o., Takai K., Ishibashi J. and Fujikura K.

14th International Deep-Sea Biology Symposium, Aveiro, Portugal (平成 27 年 8 月)

「メタン添加水槽におけるゴエモンコシオリエビの外部共生菌の変遷」

元木香織, 和辻智郎, 山本麻未, 羽田枝美, 長井裕季子, 豊福高志, 上田賢司, 高木善弘, 高井研.

2015 年度海洋若手会 東京大学大気海洋研究所 (ベスト発表賞受賞) (平成 27 年 8 月)

「沖縄トラフ伊平屋北海丘の人工熱水孔を利用した黒鉱養殖プロジェクト」

野崎達生, 石橋純一郎, 島田和彦, 長瀬敏郎, 高谷雄太郎, 加藤泰浩, 川口慎介, 和辻智郎, 渋谷岳造, 山田亮一, 猿橋具和, 許正憲, 高井研

日本地質学会第 122 年学術大会、長野 (平成 27 年 9 月)

「沖縄トラフ伊平屋北海丘の人工熱水孔を利用した黒鉱養殖プロジェクト」

野崎達生, 石橋純一郎, 島田和彦, 長瀬敏郎, 高谷雄太郎, 加藤泰浩, 川口慎介, 和辻智郎, 渋谷岳造, 山田亮一, 猿橋具和, 許正憲, 高井研

日本地球化学会第 62 回年会、横浜 (平成 27 年 9 月)

「深海底熱水活動域に生息する化学合成独立栄養細菌の集団遺伝学: 遺伝的多様性と分布パターンの解明」

美野さやか, 中川聡, 牧田寛子, 宮崎淳一, 加藤真悟, 和辻智郎, 井町寛之, 布浦拓郎, Sievert Stefan,

Godfroy Anne, 高井研, 澤辺智雄

第 30 回日本微生物生態学会大会、土浦 (平成 27 年 10 月)

**「ノホサイトの紹介」**

宮崎淳一, 高井研, 宮崎征行, 北田数也, 笠谷貴史, 山本正浩, 蝦名直也, 元木香織, 和辻智郎, Chen Chong, 石橋純一郎, 戸塚修平, 平敷紗和子, 眞壁明子, 奥村知世, 中村謙太郎, 川口慎介, 熊谷英憲
InterRidge-Japan 研究集会、柏市 (平成 27 年 11 月)

"Rapid growth of mineral deposits at artificial seafloor hydrothermal vents"

Nozaki T., Ishibashi J., Shimada K., Toshiro N., Takaya Y., Kato Y., Kawagucci S., Watsuji T.-o., Shibuya T., Yamada R., Saruhashi T., Kyo M. and Takai K.
Goldschmidt2016, Yokohama, Japan (平成 28 年 7 月)

"The effect of environmental conditions on the composition of epibiotic community associated with deep-sea crustaceans"

Motoki K., Hada E. Nagai Y., Takaki Y., Yamamoto A., Ueda K., Toyofuku T., Takai K. and Watusji T.-o.
ISME16, Montreal, Canada (平成 28 年 8 月)

"Morphological characterization of deep-sea endemic crab ventral setae"

Fujiyoshi S., Watsuji T.-o., Sawayama S. and Nakagawa S.
5th International workshop on deep sea microbiology, Kyoto, Japan (平成 28 年 9 月)

"What regulated abundance of the dominant species in the epibiotic community on the deep-sea crustaceans?"

Motoki K., Watsuji T.-o., Yamamoto A., Hada E., Nagai Y., Toyofuku T., Ueda K., Takaki Y., and Takai K.
Extremophiles2016, Kyoto, Japan (平成 28 年 9 月)

「深海底熱水活動域に普遍的に生息する化学合成独立栄養細菌の生物地理学的特徴の解明」

美野さやか, 中川聡, 牧田寛子, 工藤桃李, 宮崎淳一, 稲垣史生, 加藤真悟, 布浦拓郎, 井町寛之, 和辻智郎, 高井研, 澤辺智雄
第 31 回日本微生物生態学会大会、横須賀 (平成 28 年 10 月)

「深海底熱水活動域に生息する固有甲殻類の共生器官“腹部剛毛”の構造的特徴」

藤吉奏, 和辻智郎, 澤山茂樹, 中川聡
第 31 回日本微生物生態学会大会、横須賀 (平成 28 年 10 月)

「ゴエモンコシオリエビの外部共生菌相を用いた環境影響評価方法の構築」

和辻智郎, 元木香織, 羽田枝美, 長井裕季子, 高木善弘, 豊福高志, 山本啓之, 高井研
第 31 回日本微生物生態学会大会、横須賀 (平成 28 年 10 月)

"Compositional and functional shift in epibiotic bacterial community of hydrothermal vent crab during methane-fed rearing"

Motoki K., Hada E., Nagai Y., Takaki Y., Yamamoto A., Ueda K., Toyofuku T., Yamamoto H., Takai K. and Watsuji T.-o.
9th ASME, Busan, South Korea (平成 29 年 4 月)

「現場 RNA 固定装置を用いた深海動物の外部共生菌のメタトランスクリプトーム解析」

元木香織, 高木善弘, 徳田真紀, 笠谷貴史, 高井研, 和辻智郎
第 5 回研究会 仙台 (平成 29 年 5 月)

「ゴエモンコシオリエビを用いて外部共生細菌と深海動物の関係性を探る」

和辻智郎
第 19 回マリンバイオテクノロジー学会 仙台大会 (平成 29 年 6 月)

「ゴエモンコシオリエビを用いて外部共生細菌と深海動物の関係性を探る」

和辻智郎
第 19 回マリンバイオテクノロジー学会 仙台大会 (平成 29 年 6 月)

「深海性甲殻類の外部共生菌叢の生態をメタトランスクリプトーム解析で解明する」

元木香織, 和辻智郎, 高木善弘, 徳田真紀, 笠谷貴史, 高井研, 岩崎渉
第 32 回日本微生物生態学会大会、沖縄 (平成 29 年 7 月)

"In situ metatranscriptomics reveals physiology of chemosynthetic ecto-symbiosis of the deep-sea squat lobster, Shinkaia crosnieri"

Motoki K., Watsuji T.-o., Takaki Y., Tokuda M., Kasaya T., Takai K. and Iwasaki W.
7th International Symposium on Microbial Ecology, Leipzig, Germany (平成 30(2018)年 8 月)

「深海無脊椎動物外部共生細菌叢のロングリードメタゲノミクスによる微生物ゲノム構造進化」

所 属	東筑紫短期大学	食物栄養学科
担 当 科 目	<p>[短大食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道德・総合的な学習及び特別活動 ・ 教育原理 ・ 教育課程論 ・ 教育方法論 ・ 教職概論 ・ 教職実践演習 <p>[大学こども教育学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア研究1 <p>[大学理学療法・作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療人のための教育学Ⅰ（前期） ・ 医療人のための教育学Ⅱ（後期） 	
専 門 分 野	<p>■教育学</p> <p>■教育課程 道德 国語教育</p>	
最 終 学 歴	駒澤大学 文学部国文学科 卒業	
学 位	学士（文学）	
職 歴	<p>福岡県行橋市立仲津中学校 教諭 (昭和58年4月～平成元年3月)</p> <p>福岡教育大学附属小倉中学校 長期派遣研修員 (平成元年4月～平成2年3月)</p> <p>福岡教育大学附属小倉中学校 教官 (平成2年4月～平成13年3月)</p> <p>福岡県教育庁京築教育事務所 指導主事 (平成13年4月～平成15年3月)</p> <p>福岡県教育庁教育振興部義務教育課 指導主事 (平成15年4月～平成19年3月)</p> <p>福岡県教育庁京築教育事務所 主任指導主事 (平成19年4月～平成22年3月)</p> <p>福岡県豊前市立三毛門小学校 教頭 (平成22年4月～平成23年12月)</p> <p>福岡県京都郡みやこ町立豊津中学校 校長 (平成24年1月～平成26年3月)</p> <p>福岡県教育庁京築教育事務所 主幹指導主事 (平成26年4月～平成28年3月)</p> <p>福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻 教授 (平成28年4月～平成31年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校評価と学校改善 担当 ○校内研究の開発と組織化 担当 ○教育課程の編成・実施・評価 担当 <p>福岡県豊前市立千束中学校 校長 (平成31年4月～令和5年3月)</p> <p>福岡県豊前市教育委員会生涯学習課 地域活動指導員 (令和5年4月～令和7年3月)</p> <p>学校法人東筑紫学園東筑紫短期大学食物栄養学科 教授 (令和7年4月～現在に至る)</p>	
教育上の業績	<p>○昭和58年4月から令和5年3月まで、福岡県公立中学校教諭、福岡教育大学附属中学校教官、京築教育事務所、福岡県教育委員会義務教育課指導主事、公立小教頭、京築教育事務所主任・主幹指導主事、公立中校長を勤める。</p> <p>その間、平成28年4月から平成31年3月まで、福岡教育大学教職大学院で現職教員、学部卒業生の指導にあたる。</p> <p>○主に福岡県内の小・中学校等において、教育課程、国語教育、道德の指導を中心に、校内研修や各種研修会での講演、指導・助言を行った。</p>	
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>1. .学力向上の取組に効果のあった学校の事例考察 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 地域連携センター教育・研究年報（令和6年度号） （概要）学力向上の取組に効果のあった学校の事例を分析し、先行研究で指摘された「高い効果を出している学校」の特徴である「管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視」「小中連携教育の推進、異学年交流の重視」「言語に関する授業規律や学習規律の徹底」などの重要性を検証した。その中で、「実践的な教員研修の重視」が学力向上の要であり、学校の組織文化を活かしたカリキュラム・マネジメントの必要性を論じた。</p>	

**2. 教育実習アンケートに基づく教員養成の現状と課題に関する一考察**

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 地域連携センター教育・研究年報（令和6年度号）

（概要）約20年前の教育実習に係るアンケート調査と令和の教育実習受入校でのアンケート調査との結果を比較分析し、現在の教員養成の現状と課題を把握し、これからの教員に求められる資質・能力等を考察した。その中で、教育実習の重要性はますます高まり、教科の指導技術はもとより、教育の理念、これまでの教育及び学校の営み・制度の変遷、教職の意義等、教育にかかる基本的な事項を理解して実習に臨むことが必要不可欠であると論じた。

3. 「考え議論する」道徳への授業改善のための一試案

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 地域連携センター教育・研究年報（令和6年度号）

（概要）道徳の研究指定校の紀要を手がかりに「考え議論する」道徳への転換を図るための具体的な授業改善の方法を考察した。その中で、「考え議論する」道徳への授業改善には、道徳科、総合的な学習、特別活動それぞれの特性を活かした「カリキュラム・マネジメント」が不可欠であると論じ、具体的なカリキュラム案として、道徳科を核としたカリキュラム・マネジメント試案～「教科」「総合的な学習」「特別活動」との連携～を作成した。

【教育実践記録】**1. 確かに読む力を育てる国語科学習指導～3つの「明確化」を意識した授業づくりを通して～**（共著）岡井 正義、山根 あすかほか計16名 福岡県豊前市立横武小学校（令和5年9月）

（概要）新学習指導要領国語科の示す資質・能力を育成するため、「指導事項と学習課題の明確化」「対話の視点の明確化」「振り返りの視点の明確化」を意識した授業づくりを提唱した。

研究テーマの理論編を担当し、現代社会の課題と教育の動向に鑑み、社会の変化が激しく、先行きが不透明で予測が困難になった時代には、学校教育が抱える課題も複雑・多様化しており、これからの教員に求められる資質・能力として、ICTをはじめとする最新の専門的知識や指導技術等を身に付けようとする先取の気概が必要であり、一方で不易である教育的な愛情やコミュニケーション能力などの豊かな人間性が強く求められていることを論じた。

2. 自己をみつめ、よりよい生き方を考える生徒を育てる道徳科学習指導—ICTの効果的な活用を通して—（共著）岡井 正義、中野 亜由子ほか計17名 「福岡県の道徳教育の課題に応じた市町村による実践的研究」に係る地区別道徳教育研究協議会（令和5年11月）

（概要）研究の理論編を担当し、社会の変化・要請と教科化の背景、教育の動向や現行学習指導要領の目標分析を踏まえつつ、道徳の授業中に、ICT活用を学習過程に位置づけ、適切に活用することで、生徒が主題に関わる問題意識を自分自身の問題としてもち、また、道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めることになることを論じた。

【学会発表】 なし

主な社会活動

- ・京都郡小学校長会研修会 講師（国や県の教育施策）（平成26年11月）
- ・京築地区女性教員研修会 講師（新教育委員会制度、道徳の教科）（平成26年12月）
- ・行橋市小学校長会研修会 講師（道徳の教科化）（平成27年 5月）
- ・京築地区中学校教頭研修会 講師（教育改革の動向）（平成27年11月）
- ・行橋市立南小学校校内研 講話（主体的・対話的で深い学びに係る授業づくり）（平成28年 5月）
- ・福岡教育大学特別講座 講師（新学習指導要領「総則」）（平成28年 6月）
- ・宗像市教育センター・福津市教育研究所・福岡教育大学（教職大学院）共催事業
「経営力・授業力・組織力アップ！選べる夏期講座」講師（平成28年 8月）
- ・行橋市民大学講座 講師（教科書の変遷）（平成28年10月）
- ・上毛町立唐原小学校研究発表会 講演（主体的・対話的で深い学びに係る授業づくり）（平成28年11月）
- ・行橋市立行橋小学校研究発表会 講演（主体的・対話的で深い学びに係る授業づくり）（平成28年11月）
- ・遠賀町中学校研究会 指導助言（今後の研究の進め方）（平成29年 2月）
- ・行橋市中学校道徳教育推進教師研修会 講話（道徳の教科化の背景）（平成29年 5月）
- ・直方市中学校教科等研究集会 講演（新教育課程に基づいた授業のあり方）（平成29年 8月）
- ・京築地区中学校教頭会研修会 講演（教育改革の動向）（平成29年 8月）
- ・行橋市民大学講座 講師（変わりゆく日本の教育）（平成29年11月）
- ・みやこ町立豊津中学校研究発表会 講演（今求められる教育）（平成29年11月）
- ・行橋・京都地区教育研究所長期研修員報告会 講演（これからの教員に求められること）（平成30年 2月）



- ・京築教育事務所初任者研修 講話（これからの教員に求められること） (平成30年 2月)
- ・篠栗町立篠栗中校内研修 指導助言(新教育課程に基づいた授業のあり方) (平成30年 5月)
- ・豊前市立合岩小学校校内研修 講話（主体的・対話的で深い学びに係る授業づくり） (平成30年 6月)
- ・九州地区国立大学附属学校連盟研修会 講話（道徳の教科化の背景） (平成30年 7月)
- ・築上町立築城小・中学校合同研修会 講話（主体的・対話的で深い学びに係る授業づくり） (平成30年 8月)
- ・吉富町学力アップ推進事業研修会 講話（主体的・対話的で深い学びに係る授業づくり） (平成30年 8月)
- ・福岡県中学校国語教育研究会県大会 講演（これからの国語教育） (平成30年10月)
- ・行橋市小学校管理職研修会 講話（カリキュラム・マネジメント） (令和元年 8月)
- ・よしとみ教師塾 講話（社会に開かれた教育課程） (令和元年 9月)
- ・上毛町立上毛中学校研究発表会 講演（(主体的・対話的で深い学びに係る授業づくり） (令和元年10月)
- ・上毛町立西吉富小学校研究発表会 講演（主体的・対話的で深い学びに係る授業づくり） (令和元年10月)
- ・築上町立築城小・中学校道徳教育推進事業発表会 講演（今求められている道徳の授業） (令和元年10月)
- ・みやこ町立犀川中学校校内研 講話（これからの研究の進め方） (令和3年 7月)
- ・教育研究サークル「豊中会」研修会 講演（これからの管理職に求められるもの） (令和5年 6月)
- ・豊前市小学校長会研修会 講話（管理職のマネジメント力） (令和5年 9月)
- ・豊前市立横武小学校研究発表会 講演（主体的・対話的で深い学びに係る授業づくり） (令和5年11月)
- ・教育研究サークル「豊中会」研修会 講演（これからの管理職に求められるもの） (令和6年 6月)

- ・福岡県中学校長会 人材育成特別委員会 委員 (平成24年 4月)
- ・福岡県豊かな心育成推進会議 委員 (平成25年 4月)
- ・福岡県学力向上推進会議 委員 (平成26年 7月)
- ・福岡県初任者研修実施協議会 委員 (平成26年 9月)
- ・福岡県みやこ町教育委員会外部評価委員会 委員長 (平成27年10月)
- ・福岡県苅田町教育委員会外部評価委員会 委員長 (平成28年 4月)
- ・福岡県豊前市中学校長会 会長 (平成31年4 月)
- ・福岡県中学校国語科研究会 理事 (平成31年 4月)
- ・福岡県豊前市立千束中学校学校運営協議会 委員 (令和 5年 4月)

学 会	九州教育経営学会	(平成28年4月～現在に至る)
-----	----------	-----------------

受 賞 歴	福岡県教育委員会永年勤続20年表彰	(平成14年 4月)
-------	-------------------	------------

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目	<p>[保育学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学 ・発達心理学 ・心理学 <p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学 ・生徒指導と教育相談
専 門 分 野	<p>■心理学</p> <p>■認知心理学・実験心理学分野</p>
最 終 学 歴	九州大学・大学院博士課程 文学研究科/心理学専攻 単位取得満期退学
学 位	文学博士
職 歴	<p>佐賀女子短期大学 専任講師 (1984年4月～1987年3月)</p> <p>○心理学・教育心理学・乳幼児心理学・児童心理学の担当</p> <p>佐賀女子短期大学 助教授 (1987年4月～1993年3月)</p> <p>○心理学・教育心理学・乳幼児心理学・老人障害者心理学の担当</p> <p>福岡県立大学 助教授 (1993年4月～1996年9月)</p> <p>○知覚心理学・認知心理学・実験測定法の担当</p> <p>福岡県立大学 教授 (1996年10月～2019年3月)</p> <p>○学部：知覚心理学・認知心理学・心理学実験Ⅰ・Ⅱ・教育心理学概論 大学院：認知心理学研究・認知心理学演習・特別研究の担当</p> <p>福岡県立大学 特任教授 (2019年4月～2024年3月)</p> <p>○学部：教育心理学概論の担当 大学院：子どもの心理研究・子どもの心理演習・教育課題研究・演習、子どもの教育実践研究、特別研究Ⅰ・Ⅱの担当</p> <p>東筑紫短期大学 特任教授 (2024年4月～現在に至る)</p> <p>○発達心理学・教育心理学・心理学・生徒指導と教育相談の担当</p>
教育上の業績	○ ICT を利用して授業資料をクラウドに保存し、受講生は、いつでもどこでも資料にアクセスできるようにした。資料内には URL を載せ、受講生が URL 内の情報を読むことでさらに深い理解を旨とした。授業に対するコメントを求め、翌週の授業でフィードバックもクラウドに保存し、学生同士の理解がさらに広がっていくことを旨とした。
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>1. 生理心理学と精神生理学Ⅰ 北大路書房 2017年3月 堀忠雄・尾崎久記（監修）坂田省吾・山田富美雄（編集），福田恭介ら 37 名 (概要) 生理心理学誕生の歴史的経緯から、研究法の基礎的内容までを重点的に解説し、動物実験も含めた脳と行動の関係、および身体各部位の生体反応の計測技術と解析方法について詳述したものである。福田は、第 12 章「視覚-運動系」Pp.223-241 の編集を担当し、第 1 節「眼球運動」、第 2 節「瞳孔運動」Pp.223-231 を執筆した。</p> <p>2.ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきょうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版 2018年9月 福田恭介（編著）福田恭介・吉岡和子・中藤広美・小嶋秀幹・興津真理子・本多潤子・中山政弘・村上ゆき・森下万貴子・木藤亜紀（イラスト） (概要) 福岡県立大学で行われたペアレントトレーニングについて、保護者（親）支援から、保育者・教師の支</p>



援、さらには地域支援まで広げていくあり方を考えた本。福田はすべてのページ (Pp.256) にわたって編集と執筆を行った。

3. 心理学概論—基礎から臨床心理学まで ふくろう出版 2020年9月

宇津木成介・橋本由里(編著), 福田恭介ら 13名

(概要)

客観的な心の機能を学ぶことから始めて、他者と自分自身の心の理解につなげる。大学で初めて心理学を学ぶ学生を念頭に、心理学各分野の基本的知識を分かりやすく解説。福田はコラム 2「ペアレントトレーニング」 Pp.121-122 を担当した。

4. 知覚と感覚の心理学 サイエンス社 2022年11月

原口雅浩(編著), 福田恭介ら 10名

(概要)

人や動物は、感覚器官を通じて外界の情報を獲得し、それらは神経細胞を経て脳に伝わる。脳に伝わった情報によって私たちはものを認識し、想像したり身体を動かしたりする。そのような知覚・感覚とよばれる心のはたらきについて述べられている。福田は、第1章生理心理学 (Pp.1-21) を担当し、とくに目の生理的機能と心理的機能の関係について論述した。

【論文】

1. ペアレントトレーニング手法を用いたスキルアッププログラムが保育者・教師の子ども支援認知に及ぼす効果 2018年3月

福岡県立大学心理臨床研究, 10, 11-21. 査読有 福田 恭介・小山 憲一郎・中村 恵美子・中藤広美・酒井 志織・香月 眞美

(概要)

ペアレントトレーニング手法を用いた5回のプログラムに参加した保育者・教師が参加の前後でどのように変化するかを検討した。その結果、プログラムに参加すると保育者・教師の子どもに対する行動理論の知識は増加し、子どもへの対応も変化することが示された。とくに、子どもの事例を紹介し、現場で実践した参加者ほど、子どもへの関わりの変化が大きいことが示された。このことから、プログラムを現場で実践していくと、保育者・教師の子どもへの対応や認知を変化させることが示唆された。福田は、プログラム実施、データ・統計解析、論文執筆に筆頭著者としてかかわった。

2. 「喉まで出かかっている」ときの瞬目の抑制と発生 2021年6月

心理学研究, 92(2), 122-128. 査読有 福田 恭介・水口 美咲・松尾 太加志・志堂寺 和則・早見 武人

(概要)

「喉まで出かかっている (TOT: Tip of the Tongue)」とは、よく知っている人や物の名前は思い出せないが、関連する情報や単語は思い出せるという現象である。まばたきは、情報を待つときや情報を入力したり処理したりするときには抑制され、処理段階の最後に起こる。しかし、まばたきと TOT 状態との関係はまだ明らかではない。本研究では、TOT 状態においてまばたきの抑制と発生のタイミングがどのように変化するかを調べた。有名人の顔写真と知らない人の顔写真を連続的に提示し、各写真の後の想起刺激中に人物の名前を挙げてもらった。参加者の反応は、「知らない」、「TOT」、「知っている」に分類された。その結果、まばたき抑制は、「知らない」反応では想起刺激待ちの間に起こり、TOT 状態では起こらなかった。まばたきの抑制と発生は、記憶アクセス処理と関連していることが示された。福田は、第二著者の指導教員として論文執筆および学会誌投稿まで行った。

3. 自発性まばたき研究の40余年 2022年4月

生理心理学と精神生理学, 40 巻 1 号 p. 22-38 査読有 福田 恭介

(概要)

これまで40年余りにわたるまばたき研究を振り返った。そこでは、3名の研究者が学会で集まり、そこからまばたき研究会を立ち上げ、「まばたきの心理学」という本を出版した。まばたき研究会では多くの研究者が、自らの研究を発表し、そこから多くのまばたき研究者が輩出されていった。まばたき研究には、まばたきの数量化が求められる。まばたき率、まばたき間隔、まばたき潜時、まばたき時間分布の4つについて紹介した。最近では、まばたきとドーパミンとの関連について取り扱う研究が増えてきている。将来のまばたき研究についての方向性について議論した。

4. 保育現場における行動分析による気になる子どもへの支援 2023年12月

福岡県立大学人間社会学部紀要, 32 巻 1 号 97-107 査読なし 赤星 裕子・福田 恭介

**(概要)**

保育現場において「気になる子ども」への支援策について検討した。一人の子どもの行動エピソードをいくつか取り上げて、約4ヶ月間にわたって観察・記録し、それらの行動についてA-B-C分析を行った。行動分析結果をもとに、保育者の言葉かけを変えたり、保育室の環境構成を変えたりした結果、子どもの行動が穏やかなものになっていっただけでなく、周りの子どもたちの本児への見方も変わっていった。子どもの行動を変えることに影響をもたらした要因や支援策について検討を行った。福田は、筆頭著者の指導教員として、論文の編集や論文の構成について支援した。

5. ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアップ ワークショップ 2024年 3月

福岡県立大学心理臨床研究 16巻 1-21 査読なし 吉岡 和子・中藤 広美・小山 憲一郎・福田 恭介・古賀 なな子

(概要)

ペアレントトレーニングは、本来は発達気になる子どもを持つ親・保護者（ペアレント）に対して、子どもの行動の観察の仕方や声かけの仕方をトレーニングすることで、子どもが安心して過ごせるようにする取り組みである。この取り組みは、親・保護者だけでなく、保育者や教師にとっても役立つものであることがこれまで示されている。本研究では、これまで取り組んできた事例をワークショップで報告したものをまとめたものである。

6. 教育実習時の「保育環境の構造化」・「保育現場における予期せぬ現実」と「ストレス」との関連 2025年 3月

福岡県立大学人間社会学部紀要, 33巻2号, 67-74. 査読なし 上田 真由美・櫻井 晋伍・福田 恭介

(概要)

本研究は保育者養成校に在籍する保育学生が、保育所での実習中に気づいた保育環境および実習中の予期せぬ現実とストレス反応との間にどのような関連があるかを検討した。その結果、実習中において予期せぬ現実遭遇したときにはストレス得点が高く、構造化された保育環境の中で実習できたと感じたときにストレス得点が低くなることを示された。このことから、実習中に子どもたちの活動に見通しを持って対応でき、子どもたちが戸惑うことなく保育環境が設定されるような事前実習指導を行えば、保育学生の実習におけるストレスを低下させる可能性がある。

7. ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアップ ワークショップ：伊藤啓介先生講演「子どもの行動理解と対応の仕方」 2025年 3月

福岡県立大学心理臨床研究, 17巻, 37-55. 55. 査読なし 古賀 なな子・吉岡 和子・小山 憲一郎・福田 恭介・中藤 広美

(概要)

本研究は、広島国際大学客員教授、伊藤啓介先生のペアレントトレーニングに関する講演「子どもの行動理解と対応の仕方」の際の講演録をまとめたものである。その際、さまざまな議論が行われ、議論に参加した。

【学会発表】**1. Go課題・No-Go課題時における発達障害児の瞬目変動**

〈主催〉九州心理学会第77回大会

〈開催場所〉西南学院大学 松緑会館

〈開催年月日〉2016年12月3日

(概要)

Go・No-Go課題とは、Go試行ではできる限り速く反応し、No-Go試行では反応抑制を求めるもので、神経基盤が明確なので、瞬目発生・抑制と対応させやすく、発達との関連も明確にさせやすい。本研究では、発達障害児・定型発達児・成人にGo・No-Go課題に従事させ、その際の瞬目時間分布について検討した。その結果、No-Go課題時の瞬目率ピークは発達障害児ではGo課題時より遅れていることが示された。このことから、ボタン押し抑制に関与している前頭前野の活動低下が発達障害児で生じ、そのことが瞬目発生を遅らせていることが示唆された。

2. 瞬目発生のタイミングと心理過程

〈主催〉第35回日本生理心理学会大会



〈開催場所〉江戸川大学

〈開催年月日〉2017年5月27日

(概要)

シンポジウム「生理反応測定と行動科学とのつながりー瞬目・自律系に注目してー」の中で話題提供を行った。そこではこれまで取り組んできた研究をもとに、反応抑制に伴う前頭前野のコントロールが瞬目発生タイミングまで影響することを示し、外界の情報が必要となったときは発生が抑制され、不必要になったとき発生する。このように瞬目は、脳活動をリセットしながら、環境に適応できるようにコントロールされ、他の生理活動ともつながった脳の活動であることを提言した。

3. ペアレントトレーニング手法を用いた保育者・教師のためのスキルアッププログラムへの参加形態による子どもへの態度変容ー子どもへの関わり・子どもの問題行動の頻度と困り感に着目してー

〈主催〉九州心理学会第79回大会

〈開催場所〉長崎大学

〈開催年月日〉2018年12月2日

(概要)

ペアレントトレーニング PT と略) とは、保護者に発達障害を持つ子どもの行動を観察・記録することを教え、子どもの不適切な行動を適切な行動に変えていけるように支援していく認知行動療法に基づいたプログラムである。PTにもとづいたスキルアッププログラムは、保育・教育現場で子どもの行動を日常的に観察できる保育者・教師にも有効なことが示されている。本研究では、プログラムに参加した67名のうち、プログラム前後のデータがそろっている55名について、講義のみを聴講した聴講群31名、講義を聴講し現場の子どもに試してみた実践群24名の間でプログラムの効果の違いを検討した。その結果、実践群の方が聴講群よりも、記録や予告を行うようになり、子どもの問題行動の頻度や困り感も減少傾向にあった。また実践群の方が行動理論の知識が上昇傾向にあった。このことからPTプログラムに参加するだけでなく子どもに実践するというより積極的な取り組みが適切な関わりや知識を増やすだけでなく子どもの行動に対する困り感も減少させることが示唆された。この発表は、当学会大会の優秀発表賞を受章した。

4 話し手・聞き手における瞬目数・速度が印象形成に及ぼす影響

〈主催〉日本心理学会第83回大会

〈開催場所〉立命館大学・大阪

〈開催年月日〉2019年9月12日

(概要)

公募シンポジウム46 「操作されたまばたきで心を測る」の中で話題提供を行った。瞬目を独立変数として印象の変化を見た研究は少ない。本研究では、話し手・聞き手における瞬目数・速度が印象形成に及ぼす影響について検討した。その結果、瞬目が少ないほど積極的であるという印象を作り出した。さらに、瞬目の多い・少ないは一義的に印象に影響を及ぼすのではなく、瞬目の速度や話し手・聞き手の役割と相互作用をすることによって印象が異なることが示された。

5. Go/No-Go 課題時の瞬目発生・抑制の発達の検討

〈主催〉第40回日本生理心理学会大会

〈開催場所〉関西学院大学

〈開催年月日〉2022年5月28日

(概要)

予期や行動抑制に課題を抱えている発達障害児の瞬目の抑制・発生のタイミングを明らかにすることは、アセスメントと支援の手がかりになると考えられる。児童はWM (Working Memory) 容量が少なく、2.5秒間でGo実行やNo-Goによる行動抑制を次々に遂行していかなければならないため、成人に比べて課題成績が低下することが予想されるが、瞬目発生については明らかにされていない。本研究では、2種類のモグラたたきを模したGo/No-Go課題時の瞬目発生について、発達障害児 (DDC) 群9名、定型発達児 (TDC) 群10名、および成人 (ADP) 群12名を比較した。その結果、刺激呈示ともなう瞬目発生と刺激呈示直前の瞬目抑制は発達とともに顕著になることが示された。児童におけるWM容量の少なさと行動抑制の未熟さが瞬目発生と抑制に反映されている可能性が示された。



6. 瞬目発生・抑制の発達に伴う変化

〈主催〉まばたき研究会第25回大会

〈開催場所〉東京都港区品川 ゼンショー

〈開催年月日〉2023年3月19日

(概要)

瞬目は、反応時間課題の中で刺激の前後で抑制と発生をくり返し、予期・処理・処理終了という認知過程を表すことがわかっている。子どもから成人までの実験参加者について、抑制と発生のようなすを見た結果、成人は、刺激後の瞬目潜時が短く、子どもは、刺激前の抑制が小さいことが示された。このことから、成人は刺激の明確な切れ目に同期して瞬目が発生しやすく、刺激前の予期は発達とともに瞬目に反映されることが示唆された。

7. 瞬目研究の多様性と包括性 —40年間の研究からの展望—

〈主催〉日本心理学会第89回大会

〈開催場所〉熊本城ホール

〈開催年月日〉2024年9月7日

(概要)

シンポジウムの指定討論として、これまでの研究によって、瞬目抑制は事象の予期や処理、瞬目発生は処理終了と関連してきていることを発表し、今後の研究の方向性について二人の話題提供者にたずねた。

主な社会活動	<ul style="list-style-type: none">・北九州私立幼稚園連盟特別支援教育研究会 講師 (2024年7月)・福岡県立大学看護学部公衆衛生看護技術論 講師 (2024年8月)・福岡県私立幼稚園振興協会研修会 講師 (2024年8月)・北九州市立大学公開講座 講師 (2024年10月)・北九州いのちの電話相談員養成講座 講師 (2024年11月)
所属学会	<ul style="list-style-type: none">日本心理学会 (1977年4月～現在に至る)九州心理学会 (1977年4月～現在に至る)日本生理心理学会 名誉会員 (2024年5月～現在に至る)International Organization of Psychophysiology (IOP) (2012年11月～現在に至る)
受賞歴	<ul style="list-style-type: none">日本行動療法学会賞 (1996年4月)九州心理学会第74回大会 優秀発表賞 (2013年11月)九州心理学会第79回大会 優秀発表賞 (2018年12月)福岡県立大学ベストティーチャー賞 (2021年3月)

アベ アキエ
阿部 亜希恵 AKIE Abe 講師

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目	<p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養指導論Ⅰ、栄養指導論Ⅱ ・栄養指導実習Ⅰ ・栄養学実習 ・給食管理実習Ⅱ ・フードスペシャリスト論 ・キャリアアップ演習Ⅱ <p>[保育学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの食と栄養Ⅰ、子どもの食と栄養Ⅱ
専 門 分 野	<p>栄養教育</p> <p>○栄養指導</p> <p>特定保健指導</p> <p>健康運動指導</p>
最 終 学 歴	九州保健福祉大学 通信教育部社会福祉学部 臨床福祉学科
学 位	学士 (社会福祉学)
職 歴	<p>航空自衛隊入隊 (昭和 58(1983)年 3 月～昭和 60(1985)年 6 月)</p> <p>学校法人鶴岡学園 北海道文教短期大学 栄養士 (平成 9(1997)年 4 月～平成 11(1999)年 3 月)</p> <p>北海道千歳市臨時職員 (栄養士) (平成 11(1999)年 4 月～平成 13(2001)年 3 月)</p> <p>株式会社 九州ビット 栄養士 (平成 13(2001)年 8 月～平成 14(2002)年 5 月)</p> <p>医療法人優和会 古賀病院 管理栄養士・健康運動指導士 (平成 14(2002)年 6 月～平成 15(2003)年 3 月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州小倉病院 管理栄養士 (平成 15 (2003) 年 3 月～平成 17 (2005) 年 9 月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州小倉病院 主任 (管理栄養士) (平成 17 (2005) 年 10 月～平成 18 (2006) 年 2 月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州八幡東病院 主任 (管理栄養士) (平成 18 (2006) 年 2 月～平成 24 (2012) 年 9 月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州八幡東病院 次長 (管理栄養士) (平成 24 (2012) 年 10 月～平成 26 (2014) 年 4 月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州津屋崎病院 次長 (管理栄養士) (平成 26 (2014) 年 5 月～平成 28 (2016) 年 3 月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州小倉病院 次長 (管理栄養士) (平成 28 (2016) 年 4 月～平成 28 (2016) 年 9 月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州小倉病院課長 (管理栄養士) (平成 28 (2016) 年 10 月～令和元 (2016) 年 9 月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州総合病院 課長 (管理栄養士) (令和元(2019)年 10 月～令和 2(2020)年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○西日本看護専門学校 看護学科 非常勤講師「栄養学」担当 (平成 26(2014)年 4 月～令和 2(2019)年 3 月)</p> <p>西日本看護専門学校において看護学科 2 年生を対象に、「栄養学」の講義を担当。第一優先としては国家試験受験に向けた内容を主体に講義を行ってはいるが、臨床現場で役立つ看護師育成のために、教科書では知ることができない授業を展開および調理実習を担当した。</p> <p>○パソコンを使用した献立作成の導入 (令和 4(2022)年 4 月～現在に至る)</p> <p>栄養学実習の授業における献立作成について、従来の電卓を使用した「手計算」から、パソコンでの「栄養価計算ソフト」を使用した献立作成を導入した。導入にあたり、短時間で作成技術を身につけられるよう、簡便なマニュアルを作成した。この導入により、学生の献立作成の精度向上につなげた。</p>
職務上の業績	○調理職員の継続的採用の構築 (平成 24(2012)年度～令和元(2019)年度)



	<p>北九州八幡東病院において調理職員の退職都度採用をしていたが、年度初めに調理職員を採用できるよう高校の就職担当教師へアプローチを行い、調理師資格を持った高校生への採用を導入した。</p> <p>2年連続採用を行い、3年目からは北九州病院グループ全体に派生し、病院本部にて指定校制度が定着している。その基盤づくりに貢献した。</p>
	<p>○濃厚流動食統括管理制度の責任者 (平成 26(2014)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月)</p> <p>各社から様々な濃厚流動食や栄養補助食品が販売されているが、それらは食品であり医薬品ではないことから、選択は管理栄養士が行うべきであることを、医師や薬剤師に説明を行い、患者に適した製品の選択は管理栄養士に権限を与えてもらい、病院グループで使用可能な製品の選択(成分内容・機能別特長)から、スケールメリットを活かした価格への入札体制、統括管理に伴う規定の作成などを行う制度を前任者が構築した。その制度の継続のための責任者として業務を遂行した。</p>
	<p>○ヘルパー向け調理実習 (平成 28(2016)年 9 月～令和 2(2020)年 3 月)</p> <p>北九州ヘルスケアサービスヘルパー向けに減塩食や嚥下食など毎年テーマを変え講義および調理実習を実施している。</p>
	<p>○人間ドック対象者への栄養指導方法の構築 (平成 29(2017)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月)</p> <p>北九州小倉病院において、人間ドックの栄養指導を実施しているが、入院ドックにおいては全体に向けた講和を実施していた。人間ドックに機能評価を受けるにあたり、個別性が重視され、入院ドック受診者における個別栄養指導方法を構築した。</p>
	<p>○特定保健指導当日初回面談の導入 (平成 29(2017)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月)</p> <p>小倉病院において、市から依頼される特定保健指導を実施していたが、それに加え、2017 年より協会健保からの依頼を受けるようになった。管理栄養士の限られたマンパワーの中で、保健指導の件数を上げるため、当日に初回面談を行うシステムを構築した。</p>
<p>主な研究活動</p>	<p>【学術論文】</p>
	<p>1. Modulatory effects of Bifidobacterium longum BB536 on defecation in elderly patients receiving enteral feeding. (共著)</p> <p>(経腸栄養管理の高齢患者の排便に対するビフィズス菌 BB536 の調節効果)</p> <p>J.Kondo, A.Abe, K. Shimizu, K.Ogawa, T.Taeko</p> <p>World Journal of Gastroenterology April 14,2013;19(14):2162-2170 (2013.4)</p>
	<p>(概要)</p> <p>経腸栄養で管理している高齢者を対称に、試験 1)ではプラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の 2 群に分け、試験 2)ではビフィズス菌高用量群と低用量群とプラセボ群の 3 群に分け、便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめた。</p>
	<p>2. 「二次性サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助飲料摂取の併用効果」 (共著)</p> <p>近藤順子、阿部亜希恵、岡田昌子、川添恵理子、吉岡承美、古谷恭子、白幡 聡</p> <p>東筑紫短期大学 研究紀要 48、299-307、2017 (平成 29(2017)年 12 月)</p>
	<p>(概要)</p> <p>経腸栄養を施行されている二次性サルコペニア肥満患者を対象に、ベッドサイドリハビリテーションにビタミン D と BCAA の摂取を併用することで骨格筋の減少を抑えることが可能であるか、介入試験の結果をまとめた。</p>
	<p>2.PC を導入した献立作成の実践</p> <p>阿部亜希恵</p> <p>東筑紫短期大学 研究紀要 54、247-257、2023 (令和 5(2023)年 12 月)</p>
	<p>(概要)</p> <p>献立作成の授業において、従来の「手計算」の方法から、PCでの「栄養価計算ソフト」を用いた方法を取り入れた。その取り組みの経緯及び実践についてまとめた。</p>
<p>【学会発表】</p>	<p>1. 「高齢者に対するビフィズス菌長期投与による免疫賦活作用と感染防御効果」</p> <p>第 57 回日本栄養改善学会学術総会 (平成 22(2010)年 9 月)</p>
	<p>(概要)</p> <p>経腸栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 5 週間摂取した群の体温、便性状等の比較検討結果をまとめた。</p>

2. 「プロバイオティクビフィズス菌の長期摂取による高齢患者の便通性状および生体防御に対する影響の検討」

第 14 回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成 23(2011)年 1 月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果を報告。

3. 「プロバイオティクビフィズス菌の摂取による高齢患者の便中細菌叢および便通性状に対する影響の検討」

第 15 回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成 24(2012)年 1 月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめた。

4. Effects of the enteral nutrition containing probiotic Bifidobacterium longum BB536 on bowel movement and immunological parameters of the elderly patients

第 16 回国際栄養士会議 (平成 24(2012)年 9 月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果を報告。

5. 「ビフィズス菌 BB536 の長期投与が経腸栄養高齢患者の便性状および腸内菌叢におよぼす影響」

第 28 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (平成 25(2013)年 2 月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を 3 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 中用量群と高用量群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果および腸内細菌叢への影響を報告。

6. 「経管栄養管理の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査」

第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (平成 26(2014)年 2 月)

(概要)

管栄養で管理している高齢者において、寝たきりの不活動で体重増加、筋肉量の低下、体脂肪の増加による、サルコペニア肥満の実態調査を行い発表した。

7. 「寝たきり状態の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査報告」

第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成 27(2015)年 1 月)

(概要)

経管栄養で栄養管理している高齢者において、サルコペニア肥満の実態調査を行い、摂取栄養量との関連について発表した。

8. 「サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助食品摂取の併用効果」

第 31 回日本静脈経腸栄養学会年次学術集会 (平成 28(2016)年 2 月)

(概要)

経管栄養で栄養管理している高齢者において、サルコペニア肥満患者に対しリハビリテーションと栄養補助食品を摂取した効果について発表した。

主な社会活動

- ・ NADAC 研修会
 「段階嚥下食とチーム医療
 ～食べてもらってなんぼです～」講演 (平成 22(2010)年 12 月 11 日)
- ・ 北九州八幡東病院 家族会
 「当院の栄養管理の取り組みについて」講演 (平成 26(2014)年 3 月 8 日)
- ・ 北九州津屋崎病院 家族会
 「食事と栄養 ～生活習慣病予防対策～」講演 (平成 26(2014)年 10 月 11 日)
- ・ 九州女子大学
 「運動療法と栄養を指導する管理栄養士としての役割」講演 (平成 27(2015)年 6 月 23 日)
- ・ 桜丘校区健康講座
 「健康で老いるための 5 つのポイント “メタボとロコモ” 予防の食事」講演 (平成 28(2016)年 9 月 24 日)



	<ul style="list-style-type: none">・北九州病院ヘルスケアサービスヘルパー対象 「訪問看護に必要な栄養知識と調理実演」講演および調理実習訪問看護 (平成 28(2016)年 9 月～令和 2(2020)年 3 月)
	<ul style="list-style-type: none">・北九州小倉病院 家族会 「当院栄養管理科取り組みについて」講演 (平成 29(2017)年 7 月 28 日)
	<ul style="list-style-type: none">・北九州小倉病院 家族会 「当院の栄養管理と豆知識 (栄養ワンダー)」講演 (平成 30(2018)年 7 月 21 日)
	<ul style="list-style-type: none">・北九州小倉病院 家族会 「栄養豆知識 (栄養ワンダー)」講演 (令和元(2019)年 7 月 6 日)
	<ul style="list-style-type: none">・北九州病院グループフィジカルセミナー 「食事で健康を作る ～腸から健康に～」講演 (令和元(2019)年 9 月 7 日)
	<ul style="list-style-type: none">・福岡県栄養士会 栄養指導等ボランティア活動 (平成 13(2001)年 4 月～現在に至る)・北九州 CDE の会 栄養指導等ボランティア活動 (平成 21(2009)年 4 月～現在に至る)・北九州市小倉北区桜丘校区 健康づくり部会ボランティア参加 (平成 28(2016)年 4 月～令和元(2019)年 9 月)・小倉歯科医師会在宅歯科医療推進に関わる事業 「栄養と感染」について執筆 (令和 2(2020)年 11 月)
所属学会	<ul style="list-style-type: none">日本栄養士会 (平成 9(1997)年 4 月～現在に至る)NPO 法人 日本健康運動指導士会 (平成 13(2001)年 8 月～現在に至る)日本栄養治療学会 (旧日本臨床栄養代謝学会) (平成 19(2007)年 4 月～現在に至る)日本糖尿病協会 (平成 21(2009)年 4 月～現在に至る)北九州 CDE の会 (平成 21(2009)年 4 月～現在に至る)
受賞歴	<ul style="list-style-type: none">全国栄養士養成施設協会会長賞表彰 (平成 9(1997)年 3 月)特定医療法人北九州病院 10 年永年勤続表彰 (平成 25(2013)年 5 月)福岡県栄養士大会 第 39 回栄養改善学会 功労者表彰 (平成 25(2013)年 10 月)日本栄養士会会長表彰 (令和 6(2024)年 10 月)

遠藤 景子

ENDO kyoko

助教

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目	<p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理学 ・調理学実習 I～III ・医療秘書実務実習 (学外実習) <p>[専攻科 (介護福祉専攻)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事の介護
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■調理学 ■口腔保健学 ■予防栄養学
最 終 学 歴	九州歯科大学大学院 博士課程前期 歯学研究科/口腔保健学専攻 修了
学 位	修士 (口腔保健学)
職 歴	<p>学校法人 清磨学園 清和幼稚園 幼稚園教諭 (1995年4月～2002年10月)</p> <p>北九州市福祉事業団 枝光児童館 指導員 (2003年5月～2017年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 助手 (2017年4月～2020年3月)</p> <p>公益社団法人 日本海員掖済会 門司掖済会病院 栄養科 管理栄養士 (2020年3月～2024年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 助教 (2024年9月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○学校法人 国際志学園 九州医療スポーツ専門学校 非常勤講師 栄養指導法 担当 (2022年4月～2024年9月)</p> <p>歯科衛生学科2年生を対象に食生活・ライフステージ別の栄養学等の授業を行った。国家試験対策に向けての内容に重点をおいてはいるが、歯科と栄養をどのように関連付けて対象者に指導していくか、栄養士の立場から、栄養士が使用している資料などを活用し、実際の現場の話をしなが、多職種との連携をとれる歯科衛生士となれるよう授業を展開し指導を行った。</p>
職務上の業績	<p>○院内嚥下食患者の食事の見直しと喫食率の向上についての考察 (2023年8月～2024年3月)</p> <p>門司掖済会病院において、嚥下食患者の喫食率の低下が問題になっており、現状の把握と問題点を抽出していくリーダーとなった。とろみの調整やかゆゼリーの固さが統一されておらず、その日の作り手により出来上がりに差が見られた。調理員の入れ替わりや業務が多忙であったため、正しい伝達が行われていないことに原因が見られ、改善策としてマニュアルを作り周知を行った。その過程を院内の TQC 活動において発表をおこない、最優秀賞をいただいた。</p>
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>1 「女子学生のボディ・イメージの願望と現状について」 東筑紫短期大学 研究紀要 第48号 321-331 2017 共著者名：南里美、遠藤景子、近藤順子 (概要) 栄養士養成校に在籍する女子学生の、現在のボディ・イメージやその願望理由などの意識と、実際の体組成実測値との差異を知ることにより、適正体重の維持や食生活の改善に繋げていくための取り組みを検討した。</p> <p>2 「若年女性の体脂肪率とうま味感受性について」 九州歯科大学 大学院 修士論文 2020 (概要) 近年、若年女性の「痩せ」や「隠れ肥満」が社会的な問題になっている中で、要因の一つと考えられる食生活において、栄養バランスの偏り、味覚感度や咀嚼力の低下も懸念されている。本研究では若年女性の体脂肪率とうま味に着目して、体脂肪率とうま味感受性、食行動および咀嚼能力との関係性を考察した。</p> <p>【著 書】</p> <p>1. 「産後の食事パターンとう蝕発症リスクの関連性」</p>



ザ・クインテッセンス 41 (10) : 185-187, 2022.

遠藤景子 安細敏弘

(概要) 最新の栄養と歯科に関する論文を、解説をそえて紹介する。

・妊娠期や産後は食生活や嗜好の変化によりう蝕リスクを高めるが、シュガーコントロールにあわせて、食事パターンを考慮することでう蝕リスクをコントロールすることができる

2. 「小児の歯磨き頻度における産後のうつ病の影響」

ザ・クインテッセンス 42 (2) : 217-219, 2023.

遠藤景子 安細敏弘

(概要) 産後うつ病の早期把握と精神的なケアは、子どもに対しての愛着や良好な母子関係の形成につながり、就学前小児のう蝕予防への貢献が期待される。

3. 「カンボジアの小児におけるう蝕の発症と急性の栄養不良の関連」

ザ・クインテッセンス 42 (11) : 192-193, 2023.

遠藤景子 安細敏弘

(概要) 小児からの歯の健康維持は、健全な食生活を促すとともに発育不良の改善や将来の慢性疾患（糖尿病や高血圧等）の予防につながる

4. 「年末年始の食事とお口の健康に気を付けましょう」

豊前市 市報 2023年 12月号

(概要) 年末年始にむけた食事のとり方に関する注意事項を掲載。

【学会発表】

1. 「若年女性の体脂肪率とうま味感受性について」

〈主催〉日本咀嚼学会記念学術大会

〈開催場所〉長野県松本市

〈開催年月日〉2019年 10月

(概要) 近年、若年女性の「痩せ」や「隠れ肥満」が社会的な問題になっている。その要因の一つと考えられる食生活において、栄養バランスの偏り、味覚感度や咀嚼力の低下も懸念されている。うま味感受性が低い者には肥満が多い、うま味はラットの肥満を抑制する報告がある。これらの研究ではBMI区分による分析が多いことから、若年女性の体脂肪率に着目して、体脂肪率とうま味感受性、食行動および咀嚼能力との関係性を明らかにすることを目的とし調査した。

2. 「バス運転手を対象とした食事性酸負荷と生活習慣病および口腔内因子との関連について」

〈主催〉九州口腔衛生学会

〈開催場所〉鹿児島県鹿児島市

〈開催年月日〉2024年 9月 8日

(概要) 食事の内容は身体の酸塩基恒常性に強く影響しており、アルカリ性食品（野菜や果物）が不足すると食事性酸負荷が増加し、心血管疾患、生活習慣病、腎臓病などのリスクが上昇することが報告されている。そこで、健康問題が懸念されるシフトワーカーであるバス運転手を対象として、食事性酸負荷 (DAL) とメタボリックシンドローム (MetS) および口腔内因子との関連性について検討した。結果はMetSの非該当者→予備群→該当者になるにつれて、食事生産負荷が高くなる傾向が見られ、MetSの予防には、動物性たんぱく質と植物性たんぱく質の割合を意識し、野菜や果物類を多くとって体の酸負荷増やさない食事が必要であることが示唆された。

3. 「バス運転手を対象とした食事生産負荷とウエスト身長比の関連について」

〈主催〉日本口腔衛生学会学術大会

〈開催場所〉新潟県新潟市

〈開催年月日〉2025年 5月 17日～18日

(概要) シフトワーカーは生活習慣病のリスクが高く、睡眠障害や食習慣に問題が多いとされている。生活習慣病を予防するためにはバランスの良い食事と、身体の酸塩基恒常性の維持が求められる。生活習慣病などのリスク評価としてウエスト身長比などの指標が使用されているが、近年、体内の酸塩基バランスを見る指標である食事性酸負荷 (DAL) と心血管疾患や生活習慣病との関係が明らかになってきた。本研究では、シフトワーカーにおける DAL とウエスト身長比 (WHtR) の関連性を調べ、DALのメタボリックシンドローム (Mets) に対するリスクマーカーとしての有用性を検討した結果、DALが高くなるにつれて、WHtR, Mets有病率も増加傾向



	し、シフトワーカーの男性バス運転手において、DAL と WHtR との間に有意な関連性が認められたことから、DAL は Mets のリスクマーカーとして有用である可能性が示された。
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none">・「お口の健康」に関する講座（芦屋町公民館） (2017年11月) 咀嚼力の測定等、口腔に関する調査・九州歯科大学・西南女学院大学連携公開講座 (2018年3月) 「人生年代！美味しく楽しく令和を生きる」口腔健診 の補助・食事相談・豊前市口腔ケア事業 在宅訪問 (2022年4月～) 食生活チェックと食事相談・豊前市特定健診事業 栄養指導 (2022年4月～)・「錦ふれあいの町文化祭」門司区錦町市民センター (2022年11月) 高齢者への健康栄養診断・門司掖済会病院 「健康づくり倶楽部（糖尿病の会）」 (2022年12月) 「災害時の食事について」講演
所属学会	<ul style="list-style-type: none">日本栄養改善学会会員 (2018年2月～現在に至る)日本咀嚼学会会員 (2018年5月～現在に至る)九州歯科学会会員 (2019年4月～現在に至る)日本栄養士会会員 (2020年4月～現在に至る)日本口腔衛生学会会員 (2023年4月～現在に至る)九州口腔衛生学会会員 (2024年7月～現在に至る)
受賞歴	第46回九州口腔衛生学会 優秀発表賞受賞 (2024年9月)



学校法人 東筑紫学園

東筑紫短期大学

HIGASHI CHIKUSHI JUNIOR COLLEGE

はたの
波多野 伶

HATANO rei

実習助手

所属	東筑紫短期大学	食物栄養学科
担当科目	・臨床栄養学実習 I ・臨床栄養学実習 II ・給食管理実習 I ・ ・ ・	
最終学歴	九州栄養福祉大学	食物栄養学科 卒業
職歴	東筑紫短期大学 食物栄養学科 実習助手	(2023年4月～現在に至る)



松井 莉子

MATSUI Riko

実習助手

所属	東筑紫短期大学	食物栄養学科
担当科目	[食物栄養学科] ・栄養指導実習Ⅰ ・栄養指導実習Ⅱ ・栄養教育実習 ・給食管理実習Ⅱ	
最終学歴	九州栄養福祉大学	食物栄養学部 食物栄養学科
職歴	中間市立中間西小学校 講師(栄養教諭) 苅田町立南原小学校 講師(栄養教諭) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 実習助手	(2021年4月～2023年3月) (2023年4月～2024年3月) (2024年4月～現在に至る)